

令和6年度 いのちの授業 事例集（中学校）【道徳】

	地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1	川崎市	中3	道徳	遵法精神	本教材の内容項目は遵法精神である。しかし、幼い姉弟を動物園に入れてしまった職員の元さんの、「規則」を守らなかったという行動を通して、「命を守るための規則」について考えさせる内容となっている。一見優しく親切的な行動のように思えても、未就学の児童だけで入園させ、一時行方が分からなくなり、池のほとりで見つかったことから、一歩間違えば子供の命を奪いかねなかった。決まりには命を守るという大切な意味があることを生徒は実感し、安易な行いがどんなに危険かを生徒は実感していた。	「二通の手紙」 新・中学生の道徳 明日への扉3 学研
2	川崎市	中2	道徳	いじめ防止教育「いじめの四層構造について学ぶ」	絵本「しらんぷり」の途中までを読み聞かせを行い、結末を生徒に予想させた。その後、「いじめの四層構造」についてスライドとワークシートを用いて学び、少しでも良い結末にするためにできることはないかを話し合った。加害者・観衆だけでなく、傍観者もいじめの当事者であることに気づき、自分だったら何ができるか、どうすべきかを真剣に考える生徒がいた。	絵本「しらんぷり」を活用することで、具体的なイメージがもてた。 （参考資料）絵本「しらんぷり」、パンフレット「川崎市差別のない人権尊重まちづくり条例」
3	川崎市	中2	道徳	214	明日への扉「そこにいるだけでいい」主題名「生まれることの意味」を通していのちの授業を行った。子を産む母の気持ちを通して、自身の存在の尊さについて考えた。自己肯定感が低く、自分に自信の持てない生徒が増えていく時期の中で、生きていることの素晴らしさを感じる生徒が多かった。これからどのように生きていきたいかという発問には、これからの人生を精一杯歩んでいきたいという気持ちをつづる生徒もいた。	明日への扉「そこにいるだけでいい」主題名「生まれることの意味」
4	川崎市	中複合	道徳	いじめ防止キャンペーン①	全学年を対象に5月に生徒指導担当からの人権意識についての講話を行った。また、学級の中で、互いを尊重するため、どのように行動していくべきかを考えてもらい、学校スローガンについてクラス内で作成する活動を行った。生徒たちはいじめについての考えを話し、防止につながるアイデアについて共有しようと意欲的に取り組んだ。	生徒指導担当・学級担任
5	川崎市	中複合	道徳	いじめ防止キャンペーン②	いじめ防止に関するDVDを視聴した。その後、個人の取組を「宣言」という形で表し、クラス内で発表する活動を行った。5月のスローガン設定から学級活動や学習活動での自分たちの行動や言葉かけの振り返りを行い、生徒たちは後期の活動において、より良い学級や学校の雰囲気を自分たちの手でつくっていくために真剣に話し合い活動に臨んでいた。	いじめ防止DVD教材を使用・複合学年 （参考教材）みんなの笑顔があふれる元気な学校づくり 神奈川県教育委員会

6	川崎市	中 2	道徳	パラリング共生社会の実現に向けた障がい者理解授業	・ 様々なパラスポーツを知り、アスリート目線の動画による疑似体験をすることでパラスポーツを身近に感じさせ、興味・関心を喚起する。 ・ 障がいの種類・程度にかかわらず競技を楽しく公平に競うことができるように工夫されていることを知り、パラスポーツの意義を感じ、理解する。 ・ 障がいの有無や様々な違いを乗り越えて共生社会を作っていくにあたり、パラスポーツで実現されている公平性にヒントがあることを理解する。 ・ 障がいを抱えているかどうかにかかわらず、多様な人たちが活躍し、自分らしい人生を生きる社会を作るためには「本人の努力」「周囲の理解」「社会のあり方」が大切であること理解する。 ・ 障がいという大きな壁を乗り越え、挑戦しつづける村上選手の姿を通して、困難にぶつかっても強い意志をもって行動していくことの大切さを学ぶ。	株式会社リクルート パラリング事務局 授業データ提供
7	川崎市	中 1	道徳	いのちの授業	被害者の気持ちについて1枚の紙を例に、一度くしゃくしゃにした紙をどんなに伸ばしても、シワなくきれいな紙に戻ることは無い。実際に被害にあった人や家族が傷ついた気持ちをもとに戻すこと、無かったことにすることはできない。これからもその事実と向き合い生きていくということを前提に、実際に起きたいじめに関する事件をVTRで紹介した。万人のいのちを大切にすることはもちろん、被害者家族の気持ち、被害に合わないようにする意識など多方面からいのちを守ることについての話を聞いた。VTRを見て顔をしかめる様子や、うなずく姿が多く見られた。	・ 公益社団法人 神奈川被害者支援センターの講師 2 名 ・ 幸警察住民相談係巡査長 1 名 ・ 幸警察生活安全課少年係スクールサポーター 1 名 ・ スライド、VTR
8	川崎市	中 2	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「そこにいるだけでいい」の資料を扱った。資料の内容は、胎内で亡くなった胎児を出産する母親に付き添った助産師は人が生まれてくることの「すごさ」を実感することから、生命の尊さを考えるもの。授業を通して生まれること、生きていることの意味について考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育むことができた。	・ 道徳の教科書「明日への扉」
9	川崎市	中 1	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「あなたに」の資料を扱った。資料の内容は、我が子の誕生の喜び慈しんできた母親の心情や、周囲の人々まで喜びに満たされた様子を綴った、愛情に満ちた母の手紙である。授業を通して、自分がかげがえのない存在であることに誇りをもち、自他の生命を尊重しようとする心情を育むことができた。	・ 道徳の教科書「明日への扉」
10	川崎市	中 1	道徳	命の授業 「あなたに」	母親に反抗している娘に母から手紙を渡し、考えさせるという内容。母の手紙の「ありがとう」を考えさせた。	各クラスの担任 「明日への扉」 1 年
11	川崎市	中 3	道徳	命の授業 「忘れられない ご馳走」	「命をいただく」とは、どんなことなのか？を考えさせた。	各クラスの担任 「明日への扉」 3 年

12	川崎市	中 1	道徳	人権尊重教育	アニメの視聴を通して、人権の意義やその重要性について理解し、自他の人権を守ろうとする意識を高めることを目的として活動した。授業では①～⑤のことについて考え、話し合った。（①子どもにはどのような権利があるかを聞く。②拉致問題とはどのような問題なのかを確認する。③拉致によって奪われた権利を考える。④子どもとして守られるべき権利を奪われた方の気持ちを考える。⑤人権を大切にしなければならないのはなぜかを考える。）子どもたちは一人ひとりがもっている人権について、仲間の意見に耳を傾けながら考えをより深めていた。	
13	川崎市	中 1	道徳	生命の尊さ	この単元は、自分が今ここにいることの不思議さや生命の連続性に気づき、かけがえのない存在であることに誇りをもち、自他の生命を尊重しようとする心情を育てることがねらいである。資料を読んだ後、生徒の実態に配慮しながら、自身や家族、仲間の生命の大切さについて話し合い、考えを深めることができた。	新・中学生の道徳 明日への扉 1 「あなたへ」
14	川崎市	中 2	道徳	生命の尊さ	この単元のねらいは、生まれること、生きていることの意味について考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育てることである。生徒の実態として、命の大切さを頭では理解しているが、「死ぬ」「消える」など心無い言動で他人を傷つけてしまう場面が日常的に見られた。そこで、資料をもとに「生命の尊さ」について話し合い、考えを深めた後、命を大切にするために「今後どのように行動していくか」を記入し、学年の廊下に掲示した。	新・中学生の道徳 明日への扉 2 「そこにいるだけでいい」
15	川崎市	中 1	道徳	命の尊さ 「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」	筋ジストロフィーに冒され、23歳と7カ月で亡くなった少年の生き方を通して、生命を輝かせ生きていくことの尊さについて個人で読むことから始まる。病気の進行とともに体が不自由になっていく中で、青年はどのような気持ちだったのか、筋ジストロフィーをわかりやすく解説を入れながら考えさせた。青年の書いた詩の感想を書かせ、自分も限りある人生を輝かせて生きようとする意欲を高めさせた。	講師は担任 「たとえ僕に明日はなくとも」
16	川崎市	中 2	道徳	命の尊さ 「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」	安楽死や生命の尊さを考えさせることから始まる。それぞれの受け止め方を大事にした。相対する価値感や不慮の事故を通して、生命のかけがえのなさについて、どんなことを考えるのか話し合いをさせた。最後に授業を通して、考えたことやわかったことを書かせた。始めは安楽死に対し賛成する生徒の中に「今ある命を大切に生きていきたい」と考えが変わった生徒もいた。	講師は担任 「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」
17	川崎市	中 1	道徳	生命の尊さ	導入では、近年の殺処分数は年間1万頭以上にも及び、人間の身勝手ともいえる現状を知り、感想や考えを述べ合った。教材「捨て犬 未来」では、山口麻里子さんは虐待で傷を受けた子犬を引き取り、「未来」と名付けた。その後、未来は今西乃子さんのものですくすく育ち、不自由な体でも元気な姿を見せけている。教科書を読みながら、さまざまな発問を通して生きることのすばらしさについて考えることができた。また、映像資料を用いて生命を大切にすることについて考えを深めることができた。	新・中学生の道徳 「明日への扉 1」 P166～P169

18	川崎市	中 2	道徳	生命の尊さ	導入では、天然痘が当時恐れられていた、手の施しようのないこわい病気であったことを知り、その病気が流行していたことについて考えを述べ合った。教材「絶やしてはならない 緒方洪庵」では、緒方洪庵が人々を天然痘から救うために痘苗を使って日本全国に種痘法を広め、活動に反対されても痘苗を絶やさないように活動を続けたことに対して、自他の生命を尊重した生き方について考え、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てることができた。	新・中学生の道徳 「明日への扉 2」 P166～P171
19	川崎市	中複合	道徳	生命の尊重	道徳の授業で年間を通して、生命の連続性に気づいたり、かけがえのない存在であることに誇りをもち、自他の生命を尊重しようとする心情を育てた。また、困難や挫折を乗り越え、前向きに生きようとする意欲を高めた。	
20	川崎市	中 1	道徳	道徳 生命の尊さ	学力学習状況調査の質問用紙「将来の夢や希望をもっていますか？」について、「まったくあてはまらない」の回答が多いことが、課題となった。学年としてどのように伸ばしていくか検討し、総合的な学習の時間に「自己探求学習」をおこない、自分自身についてや将来について考える機会をもった。道徳科では、総合で設定した現時点でのなりたい自分に向けて、どのように生きていくか、自分の生き方を考えていけるように、6つの教材を選定し、ユニット学習を行った。その中の1つである、教材「たとえ僕に明日はなくても」は、余命宣告されている難病を抱えた主人公が、耳も口も不自由な陶芸家と出会ったことで、体に鞭を打ちながらいろいろなものに打ち込むようになったという話である。生徒は、命の大切さについて改めて感じたり、命の有限性について感じ、なりたい自分に向けた生き方として、いつ何が起ころかわからない人生だから、常に前向きに生きることや、いつ終わるかわからない人生だから、時間を大切にすることを考えていた。	教材 学研「明日への扉」
21	川崎市	中 1	道徳	いじめ	授業では、いじめの構造について説明し、生徒たちがその仕組みを理解できるようになりました。続いて、高橋優さんの楽曲「CANDY」を聴き、いじめられた人の心情をに寄り添う機会を設けました。歌詞を通じて、いじめによる苦しみや悲しみを生徒自身が深く感じ取ることができるようにしました。その後、自分の身の回りの平和について考え、「これがいじめに当たるのではないか」と気づくきっかけを作りました。最後に、いじめをなくすために自分ができることを考え、それぞれが「いじめ撲滅宣言」を立てました。生徒たちは授業に真剣に向き合い、特に「CANDY」を聴いた際には、歌詞の意味を持つメッセージをしっかりと受け止めていました。自分たちの生活を振り返りながら身近な平和について考え、それがいじめに繋がる可能性がないかを深く考えました。この授業を通じて、生徒たちはいじめについて改めて向き合い、行動を見直す重要性を理解する良い機会となりました。	

22	川崎市	中 1	道徳	SOSの出し方	授業では、まず発問として「自分らしさとは何か？」を問いかけ、生徒たちが自分自身について考えるきっかけをつくりました。多くの中学生が自分の気持ちを表に出さずに、1人で悩んでいるケースが多いという現状について話し、悩みを抱え込まずSOSを出すことの大切さを伝えました。次に、全国の中学生在が「友人関係」や「親との衝突」「学校の成績、部活動」といった共通の悩みについて説明しました。これにより、自分と同じ悩みをもつ仲間がいることに気づかせ、孤独感を和らげることを目指しました。その後、自分自身を振り返るためのワークシートを記入し、これまでの自分の行動や気持ちについて改めて考える時間を取りました。この活動を通じて、生徒たちは「自分らしさ」やSOSの出す重要性について深く考える機会を得ました。	
23	川崎市	中複合	道徳	多様な性って何だろう？	外部から講師を招き、「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」という演題でL G B T Qに関する講演を行った。何が「ふつう」、「あたりまえ」なのか、自分自身の問題として問い直し、「ちがひ」とは、「多様性」とは何か深く考えた。また、身近な人から性についてカミングアウトされたらどうするかを考え、受け止め方や応え方を学び、「自分だったら…」と自分事として考えを深めた。	・全校生徒対象 ・講師はR i B i t 教育事業部からお招きした。
24	川崎市	中 3	道徳	障がい者理解授業	○パラスポーツを知り、アスリート目線の疑似体験をすることでパラスポーツを身近に感じさせ、興味・関心を喚起する。 ○ 障がいの種類・程度にかかわらず競技を楽しく公平に競うことができるように工夫されていることを知り、パラスポーツの意義を感じ理解する。 ○ 障がいを抱えているかどうかにかかわらず、多様な人たちが活躍し、自分らしい人生を生きる社会を作るためには「本人の努力」「周囲の理解」「社会のあり方」が大切であること理解する。 ○ 障がいという大きな壁を乗り越え、挑戦しつづける村上選手の姿を通して、困難にぶつかっても強い意志をもって行動していくことの大切さを学ぶ。	
25	川崎市	中 3	道徳	生命の尊さ 「優介の決意」	道徳の授業で生命の尊さをテーマに授業を実施した。臓器移植に関する課題文を読み、自分ならどうするか、自分の考えを生徒同士で伝え合った。「命を大切にするとはいどういうことか」を話し合い、生命の尊さ、自他の生命を尊重することについて深く考えた。	・道徳の教科書の題材 ・厚生労働省「いのちの贈り物」冊子使用
26	川崎市	中 3	道徳	生命の尊さ 「支え合う命」	「余命一年半と宣告された主人公が、周りの人たちの思いに気づき、若い人たちに命の大切さを伝えて歩いた。」といった内容の教材を読み、主人公がどのような思いで命の大切さを伝え続けたのかを考えさせた。「限りある命についてどう考えるか」という問いに対し、生徒からは「今を大切にしたい悔いの残らない生き方をしたい」「相手を大切にするという考えも大事」といった意見が出た。自分事としてとらえ、命の大切さについて考える生徒が多かった。	(教材) 新・中学生の道徳 「明日への扉」より 「余命ゼロ 命のメッセージ」

27	川崎市	中 3	道徳	生命の尊厳	・「星野富弘さんの生き方に学ぶ」（「愛、深き淵より。」抜粋 ※道徳での扱い 困難に負けない強さと生きる喜びについて考え、生命を大切にしようという気持ちを育ませることができた。	星野富弘さんの作品を提示
28	川崎市	中 2	道徳	命の尊さ	・「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」（中学生の道徳 明日への扉より） 生命の尊厳について深く考え、かけがいのない自他の生命を尊重し、よりよく生きようとする心情を育ませることができた。	
29	川崎市	中 1	道徳	いのちの授業	実際に起きたいじめに関する事件をVTRで紹介した。万人のいのちを大切にすることはもちろん、被害者家族の気持ち、被害に合わないようにする意識など多方面からいのちを守ることについての話を聞いた。	・ 神奈川被害者支援センターの講師 2 名 ・ 幸警察巡査長 1 名 ・ 幸警察スクールサポーター 1 名
30	川崎市	中 2	道徳	「よりよく生きる喜び」	性の多様性を知り、考えることを通して互いが互いの違いを認め、よりよく生きようとする心情を高める講演であった。事前に性的マイノリティーの人々について学習を行い、「LGBEQ+」、「レインボーフラッグ」などの意味を知り、対話形式の講演で話を聞くことにより、今後の社会性やSDGsについて考えることの大切さを学ぶことができた。	虹色ダイバーシティ
31	相模原市	中複合	道徳	命に関する授業	命に関わる授業とイジメに関する授業を各学期はじめに道徳の授業で取り扱い、学校生活を豊かに過ごせるように指導をした。	教科書を利用して授業を行った
32	相模原市	中 1	道徳	いじめ	教材『傍観者でいいのか』を読み、いじめにあたる行為や判断の根拠について、考えさせる時間をつくりました。グループ活動では、いじめがもたらす結果について考え、相手の立場や個性を尊重することの大切さについて討議しました。また、それに関連して実際のいじめに関する事件の記事を通して、その結果の重大性についても扱いました。	『傍観者でいいのか』編．東京都教育委員会
33	相模原市	中複合	道徳	他者理解	「かなわね」という絵本の主人公の行動や考え方から、相手を認め、理解しようとする心の広さを養う。	指導者：生徒指導担当 教材：「かなわね」絵本 学年：全校
34	相模原市	中複合	道徳	いじめ	年度のはじめということもあり、いじめについての定義を全体で確認した。その後、昨年度のいじめフォーラムで行ったロールプレイングを教師が実践し、それについて全員で討議した。いじめは、身近なところで起こるとともに、何気ない言動がつながることをみんなで共有した。	指導者：生徒指導チームの教員 対象：全校生徒 教材：いじめフォーラムでの実践例
35	相模原市	中複合	道徳	被爆伝承講話	広島県より派遣された被爆伝承者による被ばく当時の様子をスライドなどを使用して講話をしてくださった。生徒は原爆の脅威とともに、たくさんの命が奪われたことを理解し、日常生活においても他者を尊重する気持ちを大切にすることを学んだ。	被爆伝承者

36	相模原市	中複合	道徳	人権教育入門	人権とは何かについて、指導主事から全校生徒に講義していただき、その学びをもとに、学級で具体的に、人権を大切にするためにどのような事をするか、学びを深めていく。	講師：指導主事
37	相模原市	中 1	道徳	生命の尊さ	悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。	資料名『決断！骨髄バンク移植第1号』
38	相模原市	中 2	道徳	生命の尊さ	妹の誕生する「私」や「私の家族」の思いを通じて、生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	資料名『妹に』
39	相模原市	中 1	道徳	いのちって何だろう	「いのちって何だろう」という作者の問いについて考え、「いのち」とは何か、その尊さを守るためにどのように考えていくかについて理解を深め、かけがえのない「いのち」を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして考えさせた。	東京書籍 「新訂新しい道徳1」
40	相模原市	中 1	道徳	人権教育「ハンセン病の向こう側」	ハンセン病に関する正しい知識を持ち、ハンセン病患者、ハンセン病回復者に対する差別を、ワークシートとスライドを用いて行った。生徒たちは差別が良くないことなのはすでに充分理解している。なぜハンセン病に対する差別が起こったのか、どのような非人道的な扱いがあったのかを知り、いわゆる「寝た子を起こすな理論」では差別はなくならないこと、ハンセン病について正しい知識を持つことが不当な差別を無くすことにつながることを伝えた。	・参考資料「ハンセン病の向こう側」（厚生労働省）
41	相模原市	中 1	道徳	「決断！骨髄バンク移植第一号」	白血病患者とドナーの葛藤 恐怖と使命感。他者の助けによって助けられる命がある。自らまた多くの「いのち」によっていかされている。健康のありがたさや、命の大切さについて考える。	道徳教科書
42	相模原市	中 2	道徳	「書かれなかった遺書」	最愛の娘を飛行機事故で亡くした母親が悲しみを乗り換え、お世話になった人の家族を励まし、共に支えあって生きていこうとする。今ある命を大切にし、精一杯生きる事の素晴らしさについて考える。	道徳教科書
43	相模原市	中 1	道徳	「いのちって何だろう」	普通に生活していた「ぼく」が骨折したり入院したことによって小児病棟を経験する。身近に死を感じながらも、体力は回復し、中学3年の時にはマラソン大会に出場できるまでになった。しかもマラソン大会では優勝することができた。授業内では「ぼく」と同じように、いのちの不思議について考え、とにかく生きてみようと思った「ぼく」の命と自分の命を照らし合わせながら班で話し合った。	新訂「新しい道徳」1

44	相模原市	中 2	道徳	「奇跡の一週間」	「ホスピス」という場所が存在し、どのような人のためにそこはあるものなのかを生徒たちは学んだ。 道徳の文章の中で、そこは「死んでいく人」がいる場所ではなく、「一生懸命生きている人」がいる場所だと言った主人公の言葉の意味を考え、どうしてそのような考えに至ったのか、その場所で働く人の感情なども踏まえて議論した。	新訂「新しい道徳」 2
45	相模原市	中 3	道徳	昔話法廷 「三匹のこぶた」	昔話の「三匹のこぶた」をNHKの動画で見て、論点表をもとに、オオカミを窯で煮て殺傷した三男のこぶたは有罪か無罪かを双方の立場に立って考え、裁判の形で討論させた。討論は白熱し、充実した時間となった。	参考道徳教材 NHK 昔話法廷 「三匹のこぶた」
46	相模原市	中 1	道徳	生命の尊さ	・みつはしちかこさんの詩「あなたはひかり」を読んで「命とは何か」について考えた。 ①「いのちを形で表すと、どのような形か。また、なぜそのような形だと考えたのか。」という発問では、生徒たちはさまざまな形とその形を考えた理由を発表した。 ②「自分の理想の命の形はどのような形か。」という発問では、仲間の意見を聴き、どのような形にしたら良いかを真剣に考えてワークシートに記入していた。	東京書籍 新しい道徳 1 主題 いのちを考える 題名「あなたはひかり」
47	相模原市	中 1	道徳	決断！ 骨髄バンク移植第一号	道徳の教材文「決断！ 骨髄バンク移植第一号」を読み、自分だったら骨髄を提供するかしないかを考えたり、登場人物はなぜ骨髄を提供することを決心できたのかを話し合ったりしたことを通じ、自分のみではなく、他の人の命も尊重することについて考えを深めた。	学級担任で指導 東京書籍「新訂 新しい道徳 1」
48	相模原市	中 2	道徳	妹に	妹の誕生に対するさまざまな思いを通して、生命の連続性に気づき、自分がここに生かされていることを振り返って改めて生命の大切さを深く考える。	学級担任で指導 東京書籍「新訂 新しい道徳 2」
49	横須賀市	中 3	道徳	「ハゲワシと少女」 「いのちの花プロジェクト」 「家族の思いと意志表示カード」	「いのちについて考える」をテーマにユニットを組んで授業を行った。人の命、動物の命それぞれの視点から命について考え、最終的には、自分の命と家族の命について考えられるような展開にした。	「中学道徳 3 とびだそう未来へ」 教育出版
50	横須賀市	中 1	道徳	「いじり」？ 「いじめ」？	「いじり」と「いじめ」がどう違うのか、クラス全体で話し合いを行った。同じ行動であっても、人によって考え方や感じ方は違うということに気づかせることができた。相手の気持ちを考え、相手の立場に立って行動しようとする態度につなげたい。	「中学道徳 1 とびだそう未来へ」 教育出版 「いじりといじめ、どう違う？」動画
51	横須賀市	中複合	道徳	さまざまな依存症について学び、自身の依存症の可能性について考えさせる機会とする。	依存症とは何か・依存症のメカニズム・依存症の種類（物質依存・薬物依存・行為依存・ネット依存について学ばせ、依存症になる人は弱い人なのか・だれにも頼れず人を信頼できない状況などを考えさせ、ひとりで悩まずにSOSを出してほしいなどのアドバイスを込めた。	本校スクールカウンセラーを講師とし、全校生徒に講演を依頼した。

52	横須賀市	中複合	道徳	薬物乱用防止講演「薬物から命を守る」	講師をお迎えし、薬物乱用による心身への影響、依存症、疾病との関連、社会への影響などについてスライドを見ながら、その影響や自分の人生や命を大切にすることはどういうことなのか理解を深めることができた。講演後に書いた感想文から、薬物乱用による影響がみられる画像や実例を含めた話から、生徒は自分の事として受け止めている様子が見られた。	講師は、神奈川県警察本部少年育成課 少年相談・保護センター係長 1年・2年・3年
53	横須賀市	中2	道徳	「六千人の命のビザ」	杉原千畝の決断を支えた思いについて話し合うことを通して、国際的視野に立って命について考えた。何千人もの命を救うために筆を動かし続けた杉原千畝の生き方を学ぶ中で、世界の平和と人類の発展に寄与する大切さに気づき、自己の人生に生かしていく意欲を育んだ。また、動画資料を通じてユダヤ人の歴史を知り、生きることの大切さを改めて考えた。	中学道徳② とびだそう未来へ
54	横須賀市	中複合	道徳	つながるいのち	移植された方から奇跡に近い確率で臓器移植ができたこととその後の生活について伺った。「ドナー」の言葉は知っているが詳しく知らない生徒が多くいた。 新しい臓器を必要とする人も、臓器を提供する人も命がけであり、さらに背景にはそれぞれの家族がいることに着目しながら小グループで話し合った。多くの生徒が考えたこともないことだったが、いのちのリレーについて関心を持っていた。	講師は公益財団法人から移植医療に詳しい方と実際に腎の移植手術を受けられた方に来ていただいた 全校で実施した
55	横須賀市	中3	道徳	生命の尊さ	6～7人のうち1人の確率で生まれてくる前に亡くなってしまう。生徒からは「エコー写真や妊婦は見たことがあるが、胎児の段階でなくしてしまう命があることを知らなかった」という反応が多かった。 出産が命懸けであることと、どんな人でも多くの人たちに守られながら育ってきた事実があることを学んだ。誕生は人生に一度しかないことだが、経験しない人は誰一人いない事実から、改めて自分の命も他者の命も唯一無二の存在だと気づいた。	教材「生まれてきてくれて、ありがとう～助産師からのメッセージ～」
56	横須賀市	中2	道徳	「たったひとつのたからもの」	生後一週間でダウン症の疑い、その半月後に心臓内膜欠損症と肺高血圧症と診断された著者の息子。彼は六歳で生涯の幕を閉じた。著者である母親の手記や、CM、障がいがありつつ自身で道を切り開いた方の動画を見せ「短命なのは不幸なのか」「障がいがあるのは不幸なのか」「精いっぱい生きるとはどういうことなのか」について考えを深めた。	
57	横須賀市	中複合	道徳	人権教育	人権講話を受講することで、多様性についての理解を深め、互いに認め合いながら生活を送ることや、公正・公平な心を大切にすることをねらいとした。本講和は在日コリアンの講師を2名お招きして行った。事前学習として、生徒は、在日韓国朝鮮人の方々の歴史的背景や現代も存在する差別について学んだ。本校は外国につながりを持つ生徒が多く在籍しているほか、韓国・朝鮮につながる生徒も在籍しているため、十分な配慮のもと行った。生徒は講師の方が実際に受けた差別について、自分だったらどのように考え、行動するかを考えることができた。また、差別が人のいのちを奪ってしまうことや、それを防ぐために何ができるのかを考えることができた。	講師は『ヘイトをのりこえる教室～ともに生きるためのレッスン』著者と在日朝鮮人ラッパー

58	横須賀市	中 2	道徳	命の尊さ	『たったひとつのたからもの』という教材を使用した。子供の生きる姿を見て周りの人がどう思ったかを考え、生きることの意義に気づき、精いっぱい生きていこうとする心情を育てることを目的とした授業を行った。教材の他に、母親のメッセージ付きの動画を見せることで、生徒が本教材にこめられた思いを考えることができた。生徒は、自分自身に与えられたいのちについて考え、周りのかけがえのないいのちを大切にしていきたいと授業を振り返ることができていた。	中学道徳② 『とびだそう未来へ』 動画は明治安田生命CM 「たったひとつのたからもの」 篇
59	横須賀市	中 2	道徳	「語りかける目」	阪神淡路大震災で母を失った少女の姿を通し、強く生きることや気高く生きようとすることについて考えた。震災の前日にあたる 1 月 16 日（木）に実施した。生徒のふりかえりには「よりよい生き方について考えようと思った」「何かあったときに自分の力で生きられるようにしたい」という言葉があった。	
60	横須賀市	中 3	道徳	震災学習 田老地区の教訓 津波てんでんこ	津波の田老と呼ばれるほど津波の被害の多い町である岩手県宮古市田老地区での東日本大震災当時の状況を動画で学習した。その中で「津波てんでんこ」と呼ばれる合言葉が生死を分ける一つのポイントになっていることを学んだ。 「津波てんでんこ」は津波がきたらバラバラに家族や他人のことに構わずすぐに避難しようという考えであるが、自分だけでも助かればよいという点で反対派の意見も紹介し、各クラスで議論を行った。	参考資料： 田老第一中学校 津波体験作文集 「いのち」 動画： 田老第一中学校の教訓 津波てんでんこ
61	横須賀市	中 2	道徳	ストレス対応 プログラム	心の健康への関心や、様々な悩みを相談しても大丈夫なんだという気持ちを高めるために、体験活動等を通して悩みへの対処法を増やしていくことを目的として行った。 ロールプレイングや話し合い、感情表現ゲームなどの体験活動を取り入れて、5 時間構成で行った。内容は、自分の気持ちの気づき、ストレスへの対処スキル、自分の感情の伝達、相談の理解、体験をテーマに行った。この学習を通して、ストレスへの付き合い方、受け取り方が人によって異なる事を理解することが出来た。	自殺予防 教育プログラム GRIP
62	横須賀市	中 3	道徳	いのちの花プロジェクト	道徳の教科書を題材に、犬猫の保健所による殺処分の現状を元に、動物愛護や飼い主の責任について話し合い活動を行った。殺処分が行われている現状を深く受け止める一方で、教材に取り上げられた取り組みについては疑問視する声やそれに対する反対意見など、身近な動物の命について議論する様子がみられた。	3 年の各担任が実施。 「中学道徳 3 とびだそう未来へ」 教育出版
63	横須賀市	中 2	道徳	飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ	道徳の教科書中にある、当該教材を用いて授業を行った。生徒たちは命の尊さや重み、かけがえのなさについてグループワークをしながら話し合った。話し合いの中で、複数の生徒から、「自分自身もかけがえのない命なのだ」という旨の言葉がそれぞれの表現からなされていた。道徳の授業では毎年何度かいにちについて考えさせる教材が含まれている。様々な事例で命について考えることはあるが、家族との話が絡むと生徒たちの心にもしっかりと刻まれているように感じる。	

64	横須賀市	中 2	道徳	生命の尊さ	「たったひとつのたからもの」から、1人の少年の生き方から、自分たちの生き方を見つめ直した。教科書を読み終わった際に、生きるとは、どのようなことだろうか。ということを考え、生きることの意義を感じ、精一杯生きていくことを考えている生徒もいた。	教科書の写真
65	横須賀市	中 3	道徳	生命の尊さ	「ハゲワシと少女」の写真から、国際理解を通して、当たり前前に感じている日常を見つめ直した。そのときに、写真を撮った人がその後なくなっていることも伝え、なぜそうなってしまったのかも考えた。今、命がある自分たちに何ができるのか、何を大切にするのかを考えた。	教科書の写真
66	横須賀市	中 3	道徳	かけがえのない命	南アフリカで撮影された痩せた少女がを狙うハゲワシの写真と、その写真を撮影したカメラマンの書いた文章とを読むことで、生命を大切にすることや今生きているかけがえのない生命について考えた。写真を撮影したことに対して「報道か人命救助か」と言う論争に発展したことや、撮影後のカメラマンが自死を選んだことも含め、命の重さや、今当たり前前に生きている自分たちのことを振り返って考えている生徒が多かった。	教育出版『中学道徳③』 「ハゲワシと少女」
67	横須賀市	中 2	道徳	精いっぱい生きる	生きていくためにさまざまな困難のある障害を持つ息子の、懸命に生きている姿を見守り続けた母親の手記を読み、限りのある命ながらも精いっぱい生きていくことについて考えた。初めは、「生きること」について深く考えたことがないと答える生徒が多かったが、授業を通して「明日が来ることは当たり前ではない」「自分の命を大切にしてくれる人のためにも生きていかなきゃいけない」など考える生徒が多かった。	教育出版『中学道徳②』 「たったひとつのたからもの」
68	横須賀市	中 1	道徳	生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の念を持つ	教科書をもとに、自分と他の生き物との関わりを考える授業を行った。導入では、教科書にあるウシ、ニワトリ、クジラ、パンダ等の写真の中から、いなくなったら困る生き物を考えた。どの生き物も誰かにとっていなくなったら困る存在であることに気付くことができた。展開では、生き物を殺してはいけないのはなぜか考えた。生徒は、生き物を殺してはいけないことは頭では理解している。しかし、食用肉として飼われているウシやブタを例にして生き物を殺している事実を考えることで、自分が生きられているのは他の生き物のおかげであることに気付き、考えを深めている姿が見られた。授業を通して、我々は他の生き物や周りの人の命に支えられて生きることができていることを伝えた。さらに、我々も誰かにとっての支えになっていることを伝えた。	教材：中学道徳1 とびだそう未来へ
69	横須賀市	中 2	道徳	教材名 「たったひとつのたからもの」 内容項目 D 生命の尊さ	障がいをもって生まれた我が子への母と父の思いを生徒に考えさせた。また、具体的なイメージを持つために、写真や当時流れていたCMを生徒に見せた。生きていくために様々な制限がありながらも懸命に生きようとする姿に対して生徒は何を感じ、何を考えるのかを問いだすことにより「命」について深いところまで考えることができた。事後のワークシートでは、自分は健康に生きているのが、今まで当たり前と思っていたが、これからは自分の命に対して感謝しながら生きていきたいと考えた生徒が多く見受けられた。生徒が自分の日常生活としっかりと関連付けて考えていたことが大きな成果であった。	中学道徳② とびだそう未来へ 教育出版

70	横須賀市	中 3	道徳	「かけがえのない命を守る」とは、どういうことだろうか。	ケビン・カーターが撮影した「ハゲワシと少女」という写真がアメリカで最も権威あるピューリッツァー賞を受賞した。一枚の写真を見て2つのことを考え議論した。1つ目の問い「写真を撮ったケビン・カーターの行動についてどう思うか」では、少女を助ける前にシャッターを押した、ケビンに非難する意見と写真を撮らなかったら、この事実が世間に明るみにならなかったとケビンの行動を賞賛する意見で別れた。2つ目の問い「かけがえのない命を守るとはどういうことだろうか」では、目の前の命を守ること大切だが、目の前の命をたとえ犠牲にしたとしても、多くの命を守るためにした行動は非難されるべきではないという意見が出た。	補助教材：ピューリッツァー賞の受賞作品一覧
71	横須賀市	中 2	道徳	国際貢献 ～65万人の命を救った中村哲医師～	65万人の命を救った、日本人医師「中村哲」さんの人生や考え方を学習し、次の問いを投げかけた。問い「中村哲さんの行動や考え方から、あなたはどんなことを受けとめましたか？」中村さんの行動について賞賛するとともに、その行動の裏にはどのような思いがあったのかを中村さんの言葉(補助教材)から読み取ろうとしていた。班の議論では、中村さんの「私が行っていることは、平和運動ではなく、医療の延長である」という言葉に注目し、あくあまでも、医師としての自分の仕事に全力で向き合い続ける姿勢から、改めて人を助ける仕事に従事する人の決意に触れることができた。	補助教材：中村哲医師の言葉
72	横須賀市	中 1	道徳	道徳「母の信念」	「母の信念」というモラルジレンマ資料を用いて、癌にかかってしまったことを母に告知すべきか、告知しないべきか、生徒をいずれかの立場に立たせた。その際には、告知すべきかどうかの意見を持ちやすくするために、8つの視点をワークシートに示す工夫が見られた。その後、兄弟と話し合うことを想定して、相手を説得するようにディベートを行った。ディベートの中で、母の気持ちに寄り添おうとする生徒、告知することに自分が耐えられないため告知をしないという生徒が見られた。また、数人の生徒が涙を流す姿もあり、自分の問題として捉え、考えや思いを深めている様子が見られた。	指導者：学年主任 参考資料 荒木紀幸・「モラルジレンマ資料と授業展開中学校」（明治図書）
73	横須賀市	中 3	道徳	道徳「ドナーカード」	「ドナーカード」の教材を用いて、臓器提供に関して様々な視点から考えさせた。運転免許を取得した人の立場、二人の子をもつ親の立場、配偶者がドナーカードを持っている人の立場、家族が臓器提供を受ける人の立場、臓器提供に関わる看護師の立場、様々な人物の視点に立って、生徒自身が臓器提供をするか、しないかについて話し合い、考えをまとめた。話し合いの中では、「家族と話し合うべきだ」という考えが多く見られた。自分の気持ちだけで判断するのではなく、様々な視点から、自分の問題として捉えて、考えを深めていたことが分かった。	指導者：担任 参考資料 村井実「中学道徳 心をつないで」（教育出版）
74	横須賀市	中 1	道徳	いのちを考える	生徒の実態として、給食の好き嫌が多い。植物も他の生命と同じように限りある尊いものであることに気付かせ、支え合い、生かされていることに感謝の思いを深めさせた。	教材：教育出版 中学道徳1 とびだそう未来へ 『いのちを考える』

75	横須賀市	中 1	道徳	「限りある命を生きる」について考える	「命」について自分のこととして考えさせる難しさを感じている。授業では「限りある命をどう生きるか」を考えさせ「生きることの意味」に迫った。「もし明日地球が滅びるとしたらあなたはどう生きるか」「もし40歳になる日に地球が滅びるとしたらあなたはど う生きるか」と具体的に考えやすいよう設問し、その後教材の「ヨッちゃん」の生死に触れた。生徒にとって難解であることが感じ取れたが「自分が今後どう生きるか考えるきっかけになった」「何回か命について考える授業が続き普段意識しない命について少しずつ大切さを実感できるようになってきた。」など、「命の大切さ」について回を重ねる重要性を感じた。	教材「よく生きること、よく死ぬこと」 (教育出版中学道徳 1 「とびだそう未来へ」より)
76	横須賀市	中 2	道徳	「自他の生命を尊重すること」について考える	授業では母親と少女のやりとりから、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する気持ちを考えさせた。「もう逃げなさいと母が握っていた手を離したとき、どんな気持ちだったか」と具体的に考えやすいように設問し、その後の少女の感情の変化について考えた。生徒の感想からも「実際自分が同じ立場になったら手を離せるかわからな いけれど、母の思いはわかる気がした。」「命はなくしてはならないもの。でももし同じようなことが起きたら過去のことに引きづられず、強く生きていく方が母親のためだと思 った。」と「自他の生命を尊重する」について自分事として考える機会になった。	教材「語りかける目」 (教育出版中学道徳 2 「とびだそう未来へ」より)
77	横須賀市	中 2	道徳	道徳 「たったひとつのたからもの」	ダウン症という障がいをもって生まれてきた我が子の成長の様子を、母親の立場からつ づられる実話。最初は病気だということを受け入れられず動揺する母親だったが、精一杯 生きる我が子の様子をみて、しっかりと向き合わなければという気持ちになっていく。本 授業では、施設への通園の過程をつづった描写などからも、「一日一日どのような気持ち で生きているか」という問いに対し考えを深めることができた。	中学 2 年生 道徳教科書P30 「たったひとつのたからもの」
78	横須賀市	中 1	道徳	道徳 「私に宇宙のプレゼント」	腎臓の病気を抱えた主人公が、何を目指し、何に期待して生きていけばよいのか、心の 葛藤を繰り返しながら強く生きようとする実話。本授業では、人間として強く生きていく ために必要なことを、自分事として考えられるよう展開した。つらいことや嬉しいことな ど、色々な経験をしながら、前向きに生きることの大切さを、考え深めることができた。	中学 1 年生 道徳教科書 P 118 「私に宇宙のプレゼント」
79	湘南三浦	中 3	道徳	いのちを考える 生まれてきてくれ て、ありがとうー 助産師からのメッ セージ	生命誕生に対する責任感や喜び、感謝の気持ち、生命の神秘性を通して、かけがえのな い自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。	東京書籍 新訂新しい道徳 1
80	湘南三浦	中 2	道徳	いのちを考える 奇跡の一週間	「いつか終わりが来るいのち」について考え、かけがのないいのちを感じ、今を生きる ことの尊さを考えた。	東京書籍 新訂新しい道徳 2

81	湘南三浦	中複合	道徳	いのちの教室	いのちの始まり・思春期のからだところの変化・自分と他者のお互いを尊重すること・将来の自分のためにできることなどを、鎌倉市こども家庭相談課より保健師さんと助産師さんが講演。その後、各クラスにて「自分を守るためにできること、大切な人を守るためにできること」について意見の交換を行った。	講師：鎌倉市こども家庭相談課より保健師さんと助産師さん 複合学年：中1と中2
82	湘南三浦	中2	道徳	「六千人の命のビザ」	難民の方々にビザを発行するかどうか。杉原千畝さんは自分の身の安全よりも、難民の方々の命を少しでも多く救うべきか、葛藤する。葛藤を経て、多くの難民を救うビザを発行する決断をしたのだった。このことについて、杉原さんの揺れる思いに共感しながら、命の重さについて決断できたことの素晴らしさについて考えを深めた。さらに、自分たちの身の回りには大きな脅威となるような存在はそう多くないが、生活の中に命を大切にすることを育むことはできるとして、その心を活かす場面はどんな時か考えた。	東京書籍 新しい道徳2 『六千人の命のビザ』
83	湘南三浦	中1	道徳	いのちを考える	教科書の本文の「いのちって何だろう」という作者の問いについて考えた。また、その尊さを守るためにどのように考えていくかについて理解を深め、いのちを大切にしようとする心情を育てた。また、今後は講師の先生を招いて「いのちの授業」を講演会を行い、自分のいのちを守ること、他者のいのちを守るについて考えを深める予定である。	東京書籍 新しい道徳1 『いのちってなんだろう』 鎌倉市こども家庭相談課（鎌倉助産師会）
84	湘南三浦	中1	道徳	挑戦し続けること	バスケットボール選手としての将来を嘱望されていた少年が、突然の病により右手の機能を失ってしまう。しかし実際にプレーができなくとも練習に参加し、自身や仲間のためにできることをし続けた。その結果、上位大会への出場を決める大事な試合で「左手一本のシュート」を決めることができた。大きな苦難をじわじわとプラスに変えていく少年の姿を見て、まさに命を燃やしているように感じた生徒も少なからずいたようだ。	「左手一本のシュート」 テレビ番組「奇跡体験アンビリバボー」より
85	湘南三浦	中1	道徳	「いのちを考える」	日本初の骨髄バンク登録者による白血病患者への移植手術の話を教材として活用した。手術への恐怖といのちを救う使命感の間で、ドナーである主人公の揺れる心に迫り、自他のいのちを大切にすることへの率直な意見や価値観を深め合った。また、白血病と診断された患者の方からメッセージをいただき、闘病中の実際の様子や病気になって感じたこと、気付いたことなどを伝えた。生徒たちは、いのちの大切さを深く自覚するとともに、生きていることのありがたさや素晴らしさに思いを寄せることができた。	東京書籍 新しい道徳1 『決断！骨髄バンク移植第一号』
86	湘南三浦	中3	道徳	命の授業	学年道徳を体育館で行った。「自分を大切にすること」を課題に取り上げて、他人と自分の棲み分けをきちんと行うという実践形式での講話をした。シリーズ化して行い、通算4回実施した。5月、7月、9月、11月に実施した。	
87	湘南三浦	中1	道徳	命の授業	八ヶ岳野外体験教室の実施に伴い、仲間の大切さ、命の尊さについて学年道徳の実施をした。5月に初回を実施したので継続的に3回実施予定。3回目は3月の予定。	

88	湘南三浦	中複合	道徳	命の大切さ	事前に「弟妹や親戚の赤ちゃんなど、お世話を手伝ったことがあるか」「自分が生まれた時の話を聞いたことはあるか」などの事前アンケートを行った。それをもとに、赤ちゃんが生まれてくるまでに起きる様々なことを知り、今の自分の身体に繋がっていると感じられる内容だった。新生児人形や妊婦ジャケット、心音を聴診器で聞くなどの体験コーナーも準備されており、生徒は感想に、「今自分がいるのは赤ちゃんだった自分が頑張ったから」「将来奥さんができたら、子供が生まれる時にサポートしたい」など、現在、未来につながる思いを書いていた。	出張専門助産院 助産師 出産の現場に立ち会う 仕事を通して感じていること、知っていることをスライド資料としてまとめたものを見ながらお話を聞いた。
89	湘南三浦	中3	道徳	生命の尊さ 「母のバンザイ」	2011（平成 23 年）年3月11日に起きた東日本大震災。その8か月後に岩手県の49 歳の女性が投稿した新聞記事があった。「母」が「子」を迫り来る津波から逃がした設定になっている。 「もし、自分が志田さんだったら、お母さんの言葉に従うか、それともその場に残るか」は究極の選択であるが、子どもたちは真剣に考え、自分なりの答えと理由を出していた。	学年でローテーション 道徳で職員全体で回している。
90	湘南三浦	中2	道徳	臓器移植を決断する意味とは…	中心発問では「自分が臓器移植できるか」と「誰かの臓器移植を決断できるか」、「臓器移植されることについてどう思うか」など様々な観点から話し合うことで命とはどういうものか考える機会をつくった。また、実際に臓器移植を体験した人の話の動画を視聴し、臓器移植をする立場と臓器移植をされる立場とそれぞれの立場から命について様々な角度から考えを深めることができた。	光村図書 「きみがいちばんひかるとき」 「つながる命」
91	湘南三浦	中3	道徳	命について考える	尊厳死に関する資料と読み物資料を用いて命の重さについて考えた。資料については、中学生と会社員が尊厳死についての考えを投稿したものである。読み物資料については主人公の祖父に病気が見つかり、祖父は延命措置を望まないが、その家族は延命をするという内容である。生徒達は祖父の気持ちと家族の気持ちについて考えながら、命の選択をするときに何に気をつけないといけないのか、何を考えるべきなのかを考え、意見を交換し、学んだ。	
92	湘南三浦	中3	道徳	命の尊さについて考える	震災（東日本大震災）を経験した方と支援プロジェクトを巡る実話を通して、命の尊さと生命の誕生の尊さについて考えた。東日本大震災が起きたとき3学年の生徒はまだ1歳であったため、地震の被害がどれほど大きかったか自分事に捉えることが出来ている者は少ない。資料を通して震災の悲惨さと大変な中でも生まれてくる命の尊さについて考えた。	

93	湘南三浦	中 1	道徳	「いじめ」ってなんだろう？	事例をもとに、いじめをする人、される人、関わっている人のそれぞれの立場になって考え、意見を伝え合うことで「いじめ」について考えた。誰もが安心して過ごしやすい環境をつくるために、メッセージ、キーワードや絵をカードに書き、学年全体で 1 枚の掲示物『Boddy Promise』を作成し、廊下に掲示している。	事例は、教員がオリジナルで作成したものを使用
94	湘南三浦	中 1	道徳	命の尊さ	「経済について考える」と言って、猫に値段をつけさせた。対象は、健康なスコティッシュホールド0歳、手術歴のある雑種5歳、アシェラ1歳の3匹。班ごとに値段を考えさせた後、実際の販売価格を見せて答え合わせをした。生徒たちは予想が当たったり外れたりし、反応が様々だった。次に、明日殺処分される予定の猫の値段をつけさせた。発表させると「これがこの猫の命の値段なのか」「この命にはその値段しかないのか」といった反応をし、罪悪感を与えるような反応をした。その後、嫌な思いをさせたことを謝罪し、現実世界では300万で売られる猫もいれば、殺処分される猫もいること、毎年多くの猫が殺処分されている現実について話をした。	光村図書 「きみがいちばんひかるとき」 中学道徳① p.102 捨てられた悲しみ
95	湘南三浦	中 2	道徳	～生命の尊さ～ 「生きる」ということについて、考えよう	がんが進行し、治療法がないと宣告された人々が入院するホスピスでは、緩和ケアが行われる。そこでは医療用麻薬で痛みを和らげ、残された日々を少しでも快適に過ごせるようにサポートする。一方で患者たちは死への恐怖や後悔など心の痛みも抱えている。そんな患者たちと向き合い、自分の人生を「生き抜く」手助けを行うがん看護専門看護師に密着した番組を見た。余命を宣告された父親がいた。娘は結婚式を控えているが、医師によると父親の余命はその期間よりも短かった。病院で花嫁姿を見せることは、命の終わりが近づいていることを伝えることになる。生徒はその葛藤の中で「生きる」ことについて深く考え、自己の生き方を見つめ直していた。	プロフェッショナル仕事の流儀（第91回 2008年6月24日放送）
96	湘南三浦	中複合	道徳	ルダシングワ真美さん講演会	ルダシングワ真美さんのこれまでの活動を通して、「平和」について考える機会とした。平和な社会をつくるために、私たちに何が出来なのかを考えた。国際社会の一員としての自覚を持ち、戦争の悲惨さを理解した。	NGO「ムリンディ／ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」
97	湘南三浦	中 2	道徳	生命の尊さ	日本航空 1 2 3 便墜落事故の犠牲者遺族から遺族への 1 通の手紙が送られた内容から、命の尊さや、これから命に対してどう向き合っていくかについて考えた。	
98	湘南三浦	中 1	道徳	見沼に降る星	「かけがえのない生命」「いのちの重さ」という言葉をテーマに、ひとつの「いのち」について多面的・多角的に考え、今有る命を大切にして精いっぱい生きていこうとする態度を育てることができた。	東京書籍 新しい道徳 1

99	湘南三浦	中複合	道徳	ルワンダ講演会	アフリカのルワンダで、足が不自由なご夫婦は義足や義手などを無償で提供する活動を、ルワンダ大虐殺があった３年後の１９９７年から続けている。 お二人は来日したときに、ルワンダでの悲惨な出来事や現状、平和の尊さ、そして義足を作り、無償で提供する活動「ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」を紹介する講演を行っている。今回は全校生徒の前で講演会を行ってもらった。	
100	湘南三浦	中１	道徳	食べる？ 食べない？	ある小学校のクラスが、ヒラメを稚魚から愛情をかけて育てる。成魚になったところで、このヒラメを食材として食べるのか、大きくなり育てられないので野生に返すのか、討論をする。 映像資料を使って、同じように討論を行った。日々、食したり、触れたりしているあらゆる命に感謝するという点に気づく生徒もあり、有意義な討論となった。	動画 日テレNEWSより
101	湘南三浦	中３	道徳	いのちを考える	「生まれてきてくれて、ありがとう」という教材を扱い、助産師の命と向き合おうとする姿勢から、自分や他者の命の大切さについて考えを深めた。	東京書籍 新しい道徳
102	湘南三浦	中３	道徳	いのちを考える	「くちびるに歌をもて」という教材を扱い、どんなに困難な状況であっても何としても生きようとした主人公たちを通して、命を大切に生き抜いていくには何が大切なのか考えを深めた。	東京書籍 新しい道徳
103	湘南三浦	中１	道徳	いのちを考える	東京書籍「新訂 新しい道徳１」『いのちって何だろう』という教材をもとに、「いのち」とは何か、その尊さを守るためにどのように考えていくかについて理解を深め、かけがえのない「いのち」を大切にしようとする心情を育てるというねらいをもって授業を行った。	東京書籍 新訂 新しい道徳１
104	湘南三浦	中３	道徳	「生命の尊さ」	はじめに、阪神淡路大震災をテーマとした教材を読み、この時の被害状況と災害医療について知った。次に、地震が起きてから交通が麻痺するまでの動画を見て、災害時に自分なら何ができるかを考えた。その後「トリアージ」についての動画から、人の命の重さと災害時での自分の行動を考え、その意見をクラスメイトと共有した。自分及び他の人の命を守ることの大切さを考えるきっかけにすることができた。	動画 トリアージ訓練
105	湘南三浦	中２	道徳	生命の尊さ	・「つながる命」 命は、死を迎えると二度と取り戻せないものであること（有限性）や、親から子へつながれるだけでなく、臓器移植という形によってもつながり、関わり合っていること（連続性）について考えさせた。	
106	湘南三浦	中３	道徳	「あの日生まれた命」	読み物とNHK番組のダイジェスト視聴を通し、いろいろな立場の人の気持ちを想像し、命の大切さについて考え、それぞれの思いや考えをロイロノートの掲示板上に発表した。	

107	湘南三浦	中 2	道徳	つながる命	脳死となった女兒の両親が女兒の臓器移植を決断したことを取り上げた新聞記事を読み、「命」について考えさせた。	
108	湘南三浦	中 2	道徳	ハンセン病問題	道徳の授業でハンセン病問題について 2 時間の計画で取り組んだ。 1 時間目は動画資料を視聴し、「ハンセン病の向こう側」というパンフレットを使いハンセン病問題の概要を理解した。 2 時間目はハンセン病回復者の方の受けた差別や偏見の実態を示し、「怖いのは病気そのものではなく、世間の雰囲気や社会の空気」という言葉について考え、自分達も SNS などを通して、そのような空気を広めるきっかけになってしまう危険性があることを話し合った。	人権アーカイブ 『家族で考えるハンセン病問題』（動画資料） 中学生向けパンフレット 「ハンセン病の向こう側」（厚生労働省）
109	湘南三浦	中 2	道徳	いのちを考える 『奇跡の一週間』	ホスピスの末期がん患者である北村さんとの出会いを通して「私」が考えた「いのち」について、「これからどのように生きることが『限りある命』を輝かせることににつながるのか。」ということをして一人一人が考えたうえで、クラス内でその考えを交流する機会を持った。生徒たちは改めて命の大切さと命を輝かせることについて考えることができた。	東京書籍 新しい道徳 2 「奇跡の一週間」
110	湘南三浦	中 3	道徳	戦争孤児の体験 談から考える	「知らない小さな子どもが泣いていたら？」の問いから始まる。当たり前のように「声をかけ助ける」との返答。しかし戦中、「戦争孤児」は「浮浪児」と呼ばれ社会の悪とされた。彼らが生きるには盗むしかなかった…その経験を恥ずかしいと思い語らずにいた戦争孤児の方々が、戦争の真実を伝えようとしている。戦争は「人間らしさ」を失わせる、当たり前の「いのちの大切さ」を忘れさせてしまうものだという考えさせる。	映像教材 「それでも私は生きた 知られざる戦争孤児の 実像（NHKスペシャル）」
111	湘南三浦	中 1	道徳	人間の生命と性	看護系大学より教授と学生の方々に来校して頂き、妊婦ジャケッ トや赤ちゃん人形の抱っこ体験を通して、生命の誕生の奇跡的な確率やその経過についてお話を伺った。また、2・3 年生に上がった際には、SNS 等の性的な内容含む広告の判断の仕方や、性感 染症・避妊についての講演会を行って頂いている。 1 学年生徒の感想として、「こんなに自分が周りの人に大切に育てられてきたんだと 思った」や、自分の存在が 250 兆分の 1 という確率に驚いた様子が多く見られた。	講師は助産学専攻科 の教授、教員、学生
112	湘南三浦	中複合	道徳	防災教育 「守る命 広め る防災」	避難を伴う津波災害・洪水等において、避難する際に持っていくモノは人・家族によっ て異なり、事前に準備することが大切であることを学んだ。また、準備ができていない場 合は、モノを持っていくことよりも、いのちを守ることを最優先に避難することが重要で あるということを活動後に振り返った。 生徒への予告のない避難訓練を実施する前に、各クラスでグループごとに行い、自分の 命をどう守るかを考える時間にした。	教材は日本赤十字社の 「災害時シミュレー ション」

113	湘南三浦	中複合	道徳	命に関する授業	星槎大学卓越教授であるスマナ バルナ氏より、医師やWHOでのご自身の経験をもとに、SDG sに係る海外の状況や他の人と人生を分かち合う「分かち合いの人生」についてご講演いただき、自分らしい生き方について生徒たちが考える機会となった。 生徒たちは日頃の授業や教科書・インターネット等では学ぶことのできない、当事者から世界の国々の実際の状況について、映像も交えながら話を聞くという経験ができた。	講師： 星槎大学卓越教授 スマナ バルナ氏 実施学年： 中1・中2
114	湘南三浦	中2	道徳	・生命の尊さ ・よりよく生きる喜び	日航機墜落事故で娘を亡くした母親が悲しみを乗り越えて他の人を励ます思いに共感し、互いに支えあって生きていくことの大切さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。	東京書籍 新しい道徳2 「書かれなかった遺書」
115	湘南三浦	中複合	道徳	「いのち」の授業	自分の名前の由来を事前に保護者に確認し、クラスで発表をした。名前の大切さや名付けてくれた保護者の愛情を感じ、いのちの大切さを理解している様子だった。小児がんでなくなってしまった6才の子の実話を絵本で読み聞かせ、がんとなった後も力強く前向きに生きる主人公の生き方を紹介した。世の中には色々と悩みを抱えている人や苦しい生活をしている人がいる。それでもいのちを大切にし、今という時間を大切に生きること、自分たちに何ができるのかを考え、発表した。	文：鈴木中人 「6さいのおよめさん」 文：鈴木中人 子どものための「いのちの授業」
116	湘南三浦	中1	道徳	大切な心と体を守るために ・よりよい人間関係とは ・性的暴力とは	文部科学省が作成している動画を視聴しながら、自分だけではなく、相手も守るためのより良い距離感を考えた。距離感の感じかたは人それぞれであり、自分も相手も大切にするにはどうすれば良いのかを話し合った。後半は、性的暴力の危険性についても学び、何が性暴力にあたるのかを改めて認識するとともに、対処法を学んだ。	文部科学省 生命（いのち）の安全教育動画教材（中学校）
117	湘南三浦	中2	道徳	生命の尊さ	道徳の資料「泣きすぎてはいけない」を扱い、命の尊さについて授業を行った。「生きる」とはどういうことなのかを資料を通して生徒に考えさせ、命はバトンのように受け継がれていくことに気づかせた。また、愛情や思いでといった心の中のつながりにも意味があることを知って、今後の自分の生活に生かすように伝えた。	中学道徳2 （光村図書）
118	湘南三浦	中2	道徳	道徳 使用教材 教科書 「8 命が生まれるそのときに」 指導内容項目： 「D19 生命の尊さ」	命についての詩と、出産を撮影するフォトグラファーの文章や写真を通して、「生きている」ことの尊さについて考えることができる教材で授業をした。『「平和な国に生まれ、あたりまえのように平和を享受していると、人は死が近くにあることを忘れてしまうときがある」という筆者の言葉を、あなたはどう思いますか。』という中心発問から、他人事ではないと思う意見や家族が亡くなり、命の大切さを痛感したという意見を考え出した生徒もいた。	光村図書 道徳教科用図書
119	湘南三浦	中3	道徳	動物愛護 「水槽の中のメンダコ」	メンダコは日本付近でしか見られない深海生物である。ストレスに弱く水族館での長期の展示は難しいとされている。そんなメンダコを展示することについて「かわいそう」や「研究のため仕方ない」、「学芸員も努力している」という様々な観点から、メンダコにとっての本当の幸せとは何かを考えた。その活動の中で、動物に寄り添うと言いながら結局は人間の視点で都合良く考えている部分があるということに気づき、自分の考えを見直した上で、授業の最後に「動植物や環境を守るとは何か」を考えた。	新江ノ島水族館HP アクアマリンふくしまHP 葛西臨海水族館ゾーンネット

120	湘南三浦	中 2	道徳	生命の尊さ	道徳の時間に、生命の尊さをテーマに教科書の「つながる命」を学習した。厚生労働省のリーフレット「いのちの贈りもの」を併用しながら、臓器移植について知るとともに、命について考え、生命を尊重する心の育成に取り組んだ。	
121	県央	中複合	道徳	情報モラル兼いじめ防止	携帯電話やスマートフォンの安全な使い方を学んだ。多様化する犯罪について説明があり、どのようにすれば巻き込まれないかを考えた。また、使い方によっては人を傷つけ、場合によっては命を奪うこともあることを理解した。	講師として厚木警察署のスクールサポーターを招聘した。
122	県央	中複合	道徳	いじめ防止ワークショップ	「いじめ防止プロジェクト」の一環として、全学年4時間にわたりいじめ防止ワークショップを行った。1時間目、どのようなことが「いじめ」にあたるのかを各学級で話し合い、いじめの被害者や加害者の気持ちについて考えた。2時間目は、「いじめをなくすためにできること」をクラス全員で意見を出し合い、グループごとにワークシートにまとめて掲示した。3時間目、いじめ防止ワークショップのまとめとして、各学級で「いじめ防止宣言」を採択し、4時間目に年間を通した振り返りを実施した。	中 1 ～ 中 3
123	県央	中 1	道徳	生命の尊さ	道徳の「ばあば」という教材で、生命は連綿とつながっており、関わり合い支え合ってきたことを深く自覚するとともに与えられた生命をせいっぱい生きるということについて考えた。生徒の振り返りシートには、「家に帰ったときに温かく迎えてくれ、周囲に感謝を伝えられる、何気ない日常がとても大切な思い出。」「相手を助けたり、助けられたりして協力し合うことがともに生きるということ。」などと書かれており、ともに生きていくつながりを理解し、互いにかけがえのない生命として尊重し支え合うことについて考えることができた。	中学道徳 あすを生きる（担任道徳）
124	県央	中複合	道徳	「いのち」について	国境なき医師団で看護師として活躍している方の講演会を行った。これまでニュースなどで何気なく耳にしていた「国境なき医師団」というものに対して理解を深めることができた。たくさんの人の命を守るために懸命に働く人が世界にはいることを知り、興味を持つ生徒も多かった。特に貧困などで安心して生活を送ることができない母親が、子供を守ろうと必死に助けを求めている状況の国があることを知り、命の尊さを改めて考えている様子が見られた。	1 ～ 3 年生 講師 国境なき医師団 団員
125	県央	中複合	道徳	福祉体験授業	1 年生は手話体験、2 年生は車いす体験授業、3 年生は視覚障がい者誘導体験をそれぞれ講師を呼んで福祉体験授業を行った。実際に相手の立場を体験することで、日常生活ではわからないような新しい発見があった。生徒のふりかえりから、「どの体験でも、相手の立場にたって思いやりをもって行動することを学ぶことができた」という記述があった。	手話体験：厚木市手話サークル 車いす体験講座：福祉教育推進ボランティア 視覚障がい者誘導体験：厚木市誘導赤十字奉仕団

126	県央	中3	道徳	戦争体験者講話	戦後80年を迎える中で、戦争の体験を話してもらえる機会は少なくなっている。今回は神奈川県遺族会より語り部さんを講師として招き、女性の視点で、戦前・戦中の暮らしの変化、そして戦後日本をどのように生きてきたかを講演していただいた。これからは生きる若い世代に戦争の悲惨さや、復興の中で生きる人間の強さを実感させた。	
127	県央	中複合	道徳	人権教育	人権の価値やその重要性を考え、人権が擁護され実現する。対して、これが侵害されている状態を許さないとするような人権感覚の醸成を目指した。各学年職員が生徒の実態に応じて、教材教具を工夫し、学年間共通の道徳の授業を展開した。事後学習として、生徒は人権作文や人権ポスターに取り組んだ。	
128	県央	中複合	道徳	国際平和人権学習	全学年を通して、2時間計画で国際平和人権学習を実施した。1時間は「開発途上国や世界の様々な国の問題に目を向ける」ことを目標とし、各クラスで学習を行った。2時間目は、講演会を実施し、世界にはその日を生きることには精一杯で学ぶ余裕がないことに、生徒たちは非常に驚きがあった。「私たちの当たり前ではない」ことを知り、私たちはこれからどう生きていくべきか、自分たちができることは何かを考える機会となった。	講師：JICA青年海外協力隊
129	県央	中3	道徳	生命の尊さ	東日本大震災の被災者への支援プロジェクトをめぐる実話を通して、命の尊さについて考える授業を行った。自分と周りの人の命を大切にすることや、他者の思いやりが命を尊ぶことにつながる、ということを考える生徒が多かった。	光村図書 「中学道徳3」
130	県央	中3	道徳	あの日、生まれたいのち	震災の日に生まれた命に対し、複雑な思いを抱いていた母親が、「君の椅子プロジェクト」を通して、命の誕生を素直に喜べるようになったエピソードを読み、命の尊さについて考えた。自分の他者も、かけがえのない命を持った存在ということを捉え、生命の連続性の尊さについて自分の意見を述べることができた。	
131	県央	中2	道徳	つながる命	6歳未満の脳死の女児の家族が、臓器提供を決めるまでの葛藤を書いた新聞記事を読み、女児の家族の気持ちや、命をつなぐといくことはどういうことかを考えた。生徒からは、命とはかけがえのないものである、親からもらった一番大事なものである、お金では買えないものである、といった意見があり、命とはどんなものかについてそれぞれ自分の考えをまとめることができた。	
132	県央	中2	道徳	「いのちの歌」	・歌詞をもとに、命について考えた。 ①「人々のあたたかさ」 ②寄り添ってくれる人やモノは？ ③生きていくことの意味とは？ ①～③について自分の意見を持ち、人と意見を共有した。	竹内まりあ「いのちの歌」

133	県央	中 1	道徳	捨てられた悲しみ	動物の殺処分についてポスターや数値を用いながら、命についての大切さや命の尊さについて考える授業であった。犬や猫の殺処分に対しての考え方、死刑制度についての考え方、害虫などの駆除される生き物に対しての考え方など幅広い議論がなされた。	教科書：中学道徳 ポスター
134	県央	中 1	道徳	「あなたに」	本時のねらいを「生命の尊さについて改めて考える。」とした。 題材を読む前に「誕生日おめでとう」という言葉の意味について考えた。題材を読み、①「赤ちゃんの誕生をみんながうれしい出来事として笑顔で受け止めているのはなぜでしょうか。」②「助産師さんがおなかに乗せてくれたとき、母はどんな気持ちだったでしょう。」の発問を行った。 「今こうして生きていてこの中学校このクラスでみんなと出会ったことをどう感じるだろう。」を主発問として、自分の意見をまとめ、他者と意見交換を行った。 最後に感想を記入し、まとめを行った。	新・中学生の道徳 明日への扉
135	県央	中 2	道徳	「そこにいるだけでいい」	本時のねらいを「生まれること、生きていることの意味を考え、自他の生命を尊重する。」とした。 題材を読む前に「自分が生まれた時の話あるいは、乳児だったころの話を聞いたことがありますか。それはどんな話でしたか。」の発問を行った。題材を読んだ後は、①「母親の嗚咽する声だけが悲しく響きます。」から、どんなことを考えるでしょう。②「ここにいることの『すごさ』を知ってほしい」という言葉の中の「すごさ」から、何を考えましたか。」の発問を行い、最後にストックノートに自分の考えや感想を記入した。 同じ教員が全クラスで授業を行い、自身の出産体験を踏まえながら授業を行った。	新・中学生の道徳 明日への扉
136	県央	中 1	道徳	たとえぼくに明日はなくとも(生命の尊さ)	幼いころから難病である筋ジストロフィーにおかされ、若くして亡くなった正一くんの生き方を通して、命の意味について考え、生きることの尊さに気づくことを狙いとした。病気の進行で体が不自由になり、余命僅かである事実も知らされ、不安と絶望の中、生きている時間を精いっぱい生きていこうとする正一君の姿。また、手足の自由を失った星野富弘さんがかいた「いのちより大切なもの」という詩を読むことで、命の大切さや、一度だけの終わりのある人生を悔いなく生きていく意欲を高める授業となった。	(教材) 新・中学生の道徳 明日への扉 1 株式会社学研教育みらい
137	県央	中 2	道徳	そこにいるだけでいい(生命の尊さ)	死産した我が子へ、悲しみをこらえて精いっぱいの愛情を注ぐ母親の姿を通して、生まれること、生きていることの意味について考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育てた。妊婦や胎児のエコー画像、新生児と母親の画像を見て真剣に学習に取り組んでいた。自分自身の母親への感謝とともに、命の大切さについて考えた授業となった。	(教材) 新・中学生の道徳 明日への扉 2 株式会社学研教育みらい
138	県央	中 1	道徳	生命の尊さ	題材「あなたに」を通して、生命の連続性や不思議さに気づき、誰もが誰かにとってかけがえのない存在であることに誇りを持つとともに、生命を大切にすることについて考えた。	新・中学生の道徳 明日への扉

139	県央	中 3	道徳	生命の尊さ	題材「余命ゼロ 命のメッセージ」を通して、命を大切にする生き方や考え方、命が尽きる最後の瞬間まで力強く生きることについて考えた。	新・中学生の道徳 明日への扉
140	県央	中 3	道徳	道徳教育 いのちの重さ	臓器（ドナー）提供や家族が題材の話を扱い、生徒たちが自分ごととして考える機会を設けた。自身のいのちの重さはもちろん、他者のいのちの重さに気づくことができた。臓器提供の話では、提供する側の場合は「誰かの役に立つのであれば提供したい。」という意見をもつ生徒が、提供される側を想定した途端に「もし家族や友人だったら、受け入れたくない。」と異なる意見をもっていたのが、印象深かった。	新・中学生の道徳 明日への扉 3 (株式会社学研教育みらい)
141	県央	中 2	道徳	道徳教育 安全な生活	主に防災に焦点を当て、生徒たちも知る、日本が大きな被害を受けた東日本大震災を取り上げた。震災で多くの命が奪われた事実とともに、正常性バイアスについても触れながら、自分の命を守るための備えや意識すべきことなどについて話し合った。自分ができる対策について考えるのはもちろん、人として大丈夫だと思いたいバイアスについての話は、生徒たちにとって新しい気づきとなったようだった。その後、より身近な学校内での危険に焦点を変えていき、日ごろの身の安全についても考えていった。	新・中学生の道徳 明日への扉 2 (株式会社学研教育みらい)
142	県央	中複合	道徳	生命の尊さ	それぞれの学年の道徳において、価値項目「生命の尊さ」について授業を実施。学年ごとの実態に応じて、教科書を活用して生命の尊さについて考えを深めた。	
143	県央	中 1	道徳	折れない心を育てるいのちの授業	①苦しみから支えに気づく ②苦しむ人を前にしてわたしにできることを考える ③自他を認め大切にする 以上 3 つの柱で構成され、スライドを使った講義をもとに、ワークシートを用い個人で考えたり、考えを話し合うグループワークが盛り込まれ、頭で理解するだけではなく、具体的な行動として何ができるのかを、一人一人が自分ごととして捉え考える機会となった。	講師：エンドオブケア 協会
144	県央	中 3	道徳	生命の尊厳	いのちに寄り添っている助産師という仕事のすばらしさを知り、経験に基づく「あなたが大切」という強いメッセージから「一人ひとりが尊重されるべき、かけがえのない存在であること」を生徒たちが実感する機会となった。また、「からだの権利」や「同意」について初めて知る生徒も多く、学年職員が参加した寸劇を通して、より身近に深く学ぶことができた。「今すぐに必要ではない知識もあったが、自分の未来、大切な人の未来のために必要なことを学んだ」と感じる生徒が多くいた。	講師：SUNFLOWER助産院 助産師

145	県央	中 3	道徳	自他の生命の尊 さ「臓器ト ナー」	この単元は、臓器ドナーから自他の生命の尊さを考える授業である。始めに臓器ドナーをできるかできないかという質問に、多くの生徒が自分自身なら他人のために臓器ドナーをしてもいいという意見が多かった。次に教科書から家族が臓器ドナーの意思を示したらどのように家族を思うのかを読んでもらった。再度、臓器ドナーをできるかできないかという質問をした。すると、臓器ドナーはしたい、しかし、自分は家族や知人にとって大切な存在どうしたらいいのかという葛藤を生じる生徒もいた。この授業で他人や自分自身の生命の尊さを考えることができた。	日本文教出版『中学道徳 あすを生きる 3』
146	県央	中 2	道徳	生命の尊さ 「体験ナースを とおして」	病院でナースの体験をした時の感動をつづった生徒作文を扱った教材である。出産を控えたお母さんに会い、帰宅後、母から自分の出生の話を聞き、命の尊さと母親の愛情に気づいた「私」の心情に触れる内容で、導入では「命」という言葉から思い浮かぶものを自由に語らせることから始めたが、「大切なもの」と答える生徒が多くいた。また、自分の出生時のことを聞いたことがない、という生徒も多くいたが、出産が命がけということを知り、改めて自分の命を大切にしなければいけない、と考える振り返りの記述も多くみられた。週末には中島みゆきの「誕生」という曲を聴かせ、「生まれてくれてwelcome」という気持ちを共有させた。	日本文教出版『中学道徳 あすを生きる 2』
147	県央	中 3	道徳	群青「かけがえ のない命」	学年合唱で歌う「群青」がつくられた背景について学んだ。震災で避難を余儀なくされ、複数の学校が同じ校舎で過ごしたことを知らない生徒が多かった。自分たちがその状況であったらどう思うかを話し合った。当たり前の日常が大切なことであるということも多く生徒が感想として述べていた。担任道徳で全クラス共通の教材とワークシートを使ったことにより、学年合唱練習の際は共通の思いで歌うことができた。行事が道徳としてもとても意義あるものになっていた。	
148	県央	中複合	道徳	命の大切さ ・生きること ・命 ・親への感謝 ・生きることの素 晴らしさ	すべての生徒に、自他のいのちを大切にする心を育み、「いのちを大切にする心」の充実のため「いのちの授業」を実践した。生徒からは、「この命を大切にしたい事も嫌なことも経験としていきたい」など将来に向けた感想もあり、教育的価値を共通理解できたと感じる。	中学 1， 2 年の道徳
149	県央	中 1	道徳	命の大切さと生 命の誕生につい て	市保健師の講話と、体験活動(胎動体感システム体験、妊婦体験、赤ちゃん人形を使った新生児のオムツ替え体験、胎児の成長モデルと母子手帳についての学習)を通して、妊娠中の母親の身体の変化や胎児と新生児の成長について学んだ。 体験では、妊娠中から出産後の両親の生活や気持ち、新生児について具体的に考えることができた。実際の新生児の重さに驚いたり、講話の中で、泣くことでしか表現できない新生児の扱いに戸惑う両親に気持ちや、出産にかかる費用についての具体的な金額を知り、びっくりしている生徒も多かった。	【講師】 綾瀬市健康こども部 健康づくり推進課 保 健師 【教材】 胎動体感システム、胎 児の成長過程モデル、 赤ちゃん人形等

150	県央	中 1	道徳	生命の尊さ	震災で最愛の息子を失い絶望に苦しむたかいさんが、悲しみを乗り越えていく姿から命の尊さを考える授業を行った。たかいさん本人が語る動画も視聴した。生徒の記述には、「明日がくるのは当たり前ではないから、今を大切に生きようと思った。とても悲しいことでも周りに支えてくれる人がいることで頑張ろう、笑顔でいようと思えるから、私も周りの人を支えられるようになりたい。」「いつ何が起きるかわからないし、大切な人がいつ死んでしまうかもわからないのが人生だから、日々大切な人たちに、『ありがとう。』を伝えることが大事だと思った。」とあり、生命の尊さについて考え、自らに活かそうとする姿が見られた。	・動画 ・ワークシート あすに生きる 「ゆうへー生きていてくれてありがとうー」
151	県央	中 2	道徳	防災教育「避難所にて」	阪神・淡路大震災で避難所生活を余儀なくされた人々の生活を取り上げ、日常生活を送ることが困難な状況で、力を合わせて生きていくことの大切さについて考えさせた。避難所での具体的な様子や震災のときの困難な状況について伝えと、「災害時は命を守るために自分にできることをやりたい」「普段からお互いに助け合っていきたい」と振り返りに記述する生徒たちが見られた。	日本文教出版 中学道徳 明日を生きる 2
152	県央	中 3	道徳	拉致被害者「めぐみ」	拉致被害者に関する動画を通して日本人拉致問題について学び、被害者の生命の尊さや人権について考えさせた。拉致被害者の気持ちや、拉致問題を風化させないために私たちに何ができるのかを考え、綾瀬市人権啓発活動重点目標である「「誰か」のことじゃない」という意識を持てた。	【教材】 文部科学省選定作品 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ
153	県央	中 1	道徳	拉致被害者理解授業「めぐみ」	拉致被害者に関する動画を視聴することやパワーポイントを通して日本人拉致問題について学び、被害者の生命や人権について何が問題なのかを考えさせた。また、拉致被害者の気持ちや、拉致問題を風化させないために私たちに何ができるのかを考え、綾瀬市人権啓発活動重点目標である「「誰か」のことじゃない」という意識を持つことに繋がった。	【教材】 文部科学省選定作品 北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ
154	県央	中 3	道徳	人間の命とは	アメリカで実際に行われた「尊厳死」と呼ばれている一つの死をめぐって争われた裁判について知り、「生命倫理」について話し合うことで、人間の命の尊さと・大切さを考えさせた。	教科書「新しい道徳」
155	県央	中 2	道徳	いのちを考える	出産（生まれてくる瞬間）に関する動画を視聴し、いのちについて考えさせた。	

156	県央	中 2	道徳	人権・福祉についての講話	社会福祉法人理事長であり学校運営協議委員で地域の福祉活動を推進されている方と、障害があり支援学校に通う子どもの保護者の方を講師としてお招きし、講話をしていただいた。内容は、社会福祉法人理事長の方からは、日本や生徒たちが住む町の福祉の現状についてと、その町のコミュニティセンターの役割についてお聞きすることができた。また、障害があり支援学校に通う子どもの保護者の方からは、母として中学生や社会に伝えたいことをお話いただいた。「地域と交流しながら、心も環境もバリアフリーな社会を目指したい」という講師の方からのメッセージを受け取り、生徒は活発に意見や感想を交わし合い、「心の壁をなくして、福祉と自然と触れ合っていきたい」などと思いを発表していた。	講師： ・社会福祉法人理事長であり、学校運営協議委員の方 ・障害があり支援学校に通う子どもの保護者の方
157	県央	中複合	道徳	臓器移植を通じて命の大切さについて考える	日本臓器移植ネットワークの方と心臓移植経験者の2名をお迎えし、概要と経験談をお伺いした。生徒は自分たちの親と同じ年齢の方の移植経験談から、その方の子どもたちの気持ちを考え、「母親のいない時期の寂しさはかわいそうだったが、移植によって命が繋がったことは良かった。」などの感想を持っていた。また臓器を提供する側の家族にも思いを至らせ、「亡くなってしまうことは残念だが、臓器が他の人の命を助けることはすごいことだ。」と感じていた。	講師は日本臓器移植ネットワークの職員と心臓移植経験者の2名
158	県央	中複合	道徳	戦争	村の平和学習の事業として、中学生数名が8月6日から8月8日まで広島に行き、平和祈念式典に参加した。9月にはこの体験をもとに、平和について考えた内容をまとめ、発表を行った。広島訪問に参加していない生徒は、戦争のない世の中にするために自分にできることは何か、平和な社会とは何かについての発表を聞き、意見交換を行った。	発表会は同じ村内の中学校と合同で行った。
159	県央	中複合	道徳	動物の命	学校近くにある動物保護施設「しっぽ村」に伺い、動物の命を考える道徳を行った。犬・猫のお世話をしながら、保護された経緯についてのお話を伺った。また、これまでに保護されある1匹の犬について知りながら命、について考える講義をしていただいた。	一般社団法人 しっぽ村 中学2・3年
160	中	中 2	道徳	命の授業	福岡県久留米市のとある高校の命の授業の実践についての動画を鑑賞して、「命の大切さ」について考えた。私たちは、生きていくために他の生物の命をいただいている。授業の振り返りからは、「いただきます」「ご馳走様でした」と心をこめて言うこと、いただく命をおいしく食べることの大切さを実感した等の感想が多く見られた。	動画『女子高生が鶏を育てて食べる「命の授業」』
161	中	中 2	道徳	平和について考える	夏休み中に、8月6日「広島平和記念日」、8月9日「長崎平和の日」、8月15日「終戦記念日」があり、生徒たちは、報道等で関連情報を耳にすることが多くなると想定された。道徳の授業を通じて、今も世界中でなくならない戦争で多くの命が失われていることと、大切な命を守るためにできることを考えさせた。	
162	中	中 2	道徳	臓器提供	マイナンバーカードの裏面にある臓器提供に関する意思表示を考えた。また、道徳の教材である「つながる命」を読み、実際に起きた時を想定して、意思表示に記入した。意思表示はそれぞれの考えであることを伝え、命の尊さについて考える機会とした。	中学道徳2 光村図書

163	中	中 3	道徳	命の尊さ	この教材は、延命措置を望んでいなかった祖父に、苦しむ祖父をそのままにできないと延命措置を了解してしまった家族が、本当にそれでよかったのかと迷う姿が描かれた読み物と、尊厳死を巡る新聞への投稿で構成されている。各班ごとにグループワークをし、全体に意見を共有した。尊厳死という言葉を知らない生徒もいたが、尊厳死に対して考えを深めることができた。	中学道徳 3 光村図書
164	中	中 1	道徳	命の尊さ	東日本大震災、阪神・淡路大震災を巡る実話を通して、生命の尊さについて考えさせ、自他の命を大切にしていこうとする心情を育てた。震災などで被害にあった人が身の回りにおらず、最初は震災被害について考えるイメージがわからない生徒も多かった。避難訓練など日頃から備えておくことについて、より深く考えることができた。	光村図書 ⑪ひまわり
165	中	中 1	道徳	「かけがえのない家族の存在に気づき、家族への接し方を考える」	この教材では、物忘れがひどくなってきた祖母に対して、孫が強く当たってしまう様子が描かれている。思春期真ただ中であるからこそ、この教材に親近感を示す生徒が複数いた。「僕」の気持ちに共感する生徒が多かったため、視点を変えて、祖母のノートを読み、祖母の気持ちを考えた。そこで、生きていくうえで老いは避けられないものであるが、それを受け入れることも難しいことであり、葛藤しながら生きていることを学んだ。人のいのちは永遠ではないからこそかけがえのないものだとして改めて理解し、今後家族とどう接していくかについて考え、話し合った。	『一冊のノート』私たちの道徳 中学校（文部科学省）
166	中	中 1	道徳	D生命の尊さ 命について考えよう「家族の延命措置」	身近な生き物の「命」について考えようというテーマのもと、犬猫の殺処分の現状や、収容センターで働く筆者の苦悩について想像し、考えた。また、ペット飼育に関する啓発ポスターに、自分だったらどんなメッセージを書き入れるか考えることで、動物も人間と同じ一度きりの人生であることや、命は一つしかなくかけがえのないものであるのだから、生き物を飼う人間にも責任感をもつ必要があるということを学ぶことができた。	光村図書. 中学道徳 ⑭命の選択
167	中	中 2	道徳	動物愛護 「ペットの殺処分と保護活動」	授業の導入で「今までペットを飼ったり、動物を育てたりした経験があるか」と「人間にとってペットとはどんな存在か」の2つの問いを投げかけた。その後、テレビ局が提供するペット保護を行う女性の動画を観て、生徒は「殺処分」と「保護」について理解を深めた。授業の最後に、まとめとして「ペットの殺処分」を無くすために自分たちは何ができるかを考え、クラスで全体で共有した。	（参考資料） テレビ局が提供する道徳用の教材（動画）
168	中	中 1	道徳	防災教育	緊急地震速報が流れてから8秒間。その間でいかに自分の身を守るか、安全が確保される場所へ避難するか、その必要性について学年全体で学ぶ機会を設けた。地震が起きた時にどのような行動をするか、場所（リビング、風呂、トイレ、キッチン、出先…）によって考えられる危険性と、取るべき行動について班ごとに考える時間とした。	講師は学校職員

169	中	中 1	道徳	生命の尊さ 「捨てられた悲しみ」	犬や猫の殺処分についての知識を深め、「残り少ない、命のために」を読み、命の尊さや命を大切にする生き方について考えた。身近なペットの話であるため、話合いの中で、「命が有限であること」や「命を大切にしよう」といった意見を出す生徒の姿が見られた。	中学道徳 1 「捨てられた悲しみ」
170	中	中 2	道徳	生命の尊さ 「命が生まれるそのときに」	「いのちの音」や出産を撮影するフォトグラファーの文章を読むことで、「生きていることが当たり前ではない」ことを感じさせ、生きていることの尊さについて深く考えさせた。話合いでは、日常生活の中で、命が尊いことや命がいつ失われるかわからないことについて改めて考える生徒の姿が見られ、普段からの生活を改めようとする意見が出た。	中学道徳 2 「命が生まれるそのときに」
171	中	中複合	道徳	人権教育	神奈川県の人権教育学習教材の人権学習ワークシート集を参考に、各学年の実情に応じて選択をし、「子どもの人権」「災害発生時の人権問題」「インターネットによる人権侵害」について授業実践をした。授業後の生徒の感想では、「多様な社会になってきているので、誰もが他者から受け入れられる世の中になってほしい」「災害は他人事ではなく、自分事として捉えて日々過ごしたい」「SNSの使い方について改めて考えた」等の意見があったが、普段の学校生活の中で、それらを意識した言動については、今後も継続的に人権教育を行っていく必要があると感じた。	神奈川県の人権教育学習教材の人権学習ワークシート集。 対象：中学 1 年生～ 3 年生
172	中	中 2	道徳	「生命の尊さについて考える」	この詩の「私」は亡くなった祖父で、孫である「おまえ」へ「生きている者の幸せを祈って」思いがつづられている。一緒に聞いた鳥の声、赤とんぼを帽子で押さえて振り返った「おまえ」の自慢そうな顔など、ともに過ごした日々を思い出し、「おまえ」に泣いてもいいけれども「泣きすぎてはいけない」「私が好きな おまえは 笑っていた おまえだから」と呼びかける。そして「おまえ」が成長して、将来その子供がとんぼを押さえて振り返ったときに「アア」と「私」からの命のバトンに気づくだろうとつづる。この詩は、命の有限性、連続性について思いを深めることのできる教材である。教材を通して、生きている者の幸せとはどんなものなのかを考える機会にすることができた。同時に、生きることの難しさを感じ、生きていくことの存在の大きさについて学ぶ機会とした。	題材名 「泣きすぎてはいけない」 出典 「中学道徳 2 きみが いちばん ひかるとき」 内田 麟太郎著 光村図書
173	中	中 3	道徳	「生命の尊さについて考える」	東日本大震災の被災者への支援プロジェクトを巡る実話を通して、「家族の大切さや生命の尊さ」について考える題材。2011年3月11日に赤ちゃんを産んだ母は、その4時間後の地震で祖母を亡くした。母は赤ちゃんが生まれたことを素直に喜ぶ気持ちになれず複雑な思いを抱え続けた。赤ちゃんが1歳の誕生日を迎える頃、北海道の「君の椅子」プロジェクトの人たちから、木製の小さな椅子が贈られてきた。「新しい命が誕生する喜びを地域全体で分かち合いたい」という願いを込めた椅子が贈られてきたことで、ようやく母は赤ちゃんの誕生を素直に喜んでいいのだと思うようになる。被災地で生まれた命を守り抜いてきた家族たちの3年と未来への希望を見つめる題材である。教材を通して、「命」の尊さについて考える機会にすることができた。失われた命は取り戻せないが、わずかな可能性の中、生まれてきた子どもたちはその日のことを忘れさせない命の結晶になっていることに気付くことができた。	題材名 「あの日 生まれた命」 出典 「中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき」 NHK取材班 光村図書

174	中	中 1	道徳	生命の尊さ・自然愛護	野生の熊にソーセージを与えたことにより、人を襲うようになり、最終的にその熊を殺処分するに至った話を読み、野生動物との関わりや可愛がること、人が手を出すことがよいのかどうかを考え、自然愛護の精神を学ぶとともに命の大切さを考えた。	中学道徳「きみがいちばんひかるとき」光村図書
175	中	中複合	道徳	いのちの大切さ	高校生がカモを育成し、そのカモを食べる過程を通して命の重さを学ぶ動画を視聴し、命の大切さを考えた。動画を視聴する中で、命の尊さや責任を感じ、日常の食物への感謝の念が深まった。また、授業や話し合いでは命を奪う意味や倫理的な視点を考え、多くの生徒が深い気づきを得た。生徒の振り返り用紙には、「命をいただくのは自分が生きるために大切なこと」、「感謝の気持ちを持つことが大切」などの感想が記入されていた。	youtube 「育て、奪い、いただく。カモの命が教えてくれる大切なこと」 対象：中学1～3年
176	中	中 1	道徳	生命の尊さ	道徳の教科書教材「捨てられた悲しみ」について学習した。犬猫に関する環境省の調査資料、日本動物愛護協会のペット飼育に関するポスター、犬猫の殺処分を行う施設の職員の仕事に関する文章と写真を通して、生命を尊ぶことについて考えた。普段の生活の中で、自分が生き物の命についてどのように考えているかを振り返り、動物を飼うことの責任について考えた。	中学道徳1 きみがいちばんひかるとき「捨てられた悲しみ」
177	中	中 1	道徳	生命との関わりについて (生命の尊さ)	「命」について考え、自他の命を大切にすることをねらいとして、東日本大震災の津波で家族を失ってしまった方の話を扱った。東日本大震災が発生した年に生まれた1年生はその様子をあまり知らず、津波の被害について知ると、とても驚く様子が見られた。また、災害によって家族を失った方が、その家族のために、この経験を周りの人たちに伝え、頑張っていく姿を紹介した。今、自分たちに何ができるかという質問に対して、能登半島地震などを例に出して、「震災がいつ起こるかわからない状況なので、何気ない一日や、いつもの日常を大切にしていきたい」と考える生徒が多かった。	「ひまわり」 出典：「中学道徳 1 きみが いちばん ひかるとき」（光村図書）
178	中	中 1	道徳	生命の誕生～いのちの大切さ～	生命誕生の科学的仕組みについて理解し、神秘的かつ奇跡的な生命の誕生に気づかせる内容となっている。 名前の由来や、誕生時の記録などを収集し、家族や、親戚に祝福をされ、産まれてきたあとも、弛まぬ愛情と保護に支えられ、今日に至っていることを知る。 かけがえのない生命として誕生をしてきた自分をみつめ、どう生きていくかを考える内容であった。	
179	中	中 3	道徳	生命の尊さ	本教材は、自然と人間、自己との関わりについて考えを深め、自然との調和の中で生かされていることを自覚し、共存していこうとする態度を育てることをねらいとした。ある村の農作物を荒らす悪質なサルの駆除に協力してほしいと依頼された写真家の心の葛藤が描かれている。写真家の思いに寄り添いながら、自分だったらどう行動するか考え、グループでの話し合いや意見の共有が行われ、ねらいに迫ることができた。	

180	中	中 1	道徳	「あなたが う まれた ひ」	発問「誕生日はあなたにとってどんな日？」から誕生日について意識付けを行い。「あなたが うまれた ひ」をよんだ後に感想と今後仲間が誕生日になったらどんな声掛けをするか考える活動を行った。	
181	中	中 1	道徳	「いのちを考え る」	導入のitoゲームのアイスブレイクから「人にとっていなくなったら困る生き物」の発問を行い。「いのちを考える」を読んだ後になぜ殺してはいけないのかやいのちを奪わないと生活できないことについて個人やグループで考える活動を行った。	
182	中	中 1	道徳	防災教育 「一日前に戻れ るとしたら」	近年日本各地で起きている自然災害や、それに伴った被害の様子から、学校現場における防災教育の重要性が注目されている。自分の身を守るために、災害を防止するためにどのような工夫がされているのか、日常からどのような準備をしておくことが大切なのか、災害が起きたときにどのような行動をとることが良いのかなどについて考えた。授業を終えて、自分事として考えることができている生徒が多くいるように感じた。事前の準備があれば、いざという時に素早く冷静に避難できることを「スーツケースに何を入れる？」の活動を通して経験できた。防災訓練の際に、本時の授業の内容を話している生徒も見受けられた。	
183	中	中 1	道徳	生命の尊さ 「いのちを考え る」	本教材は、前半は動物のイラストのページ、後半は読み物のページで構成されており、前半は生き物と自分との関りについて「いなくなったら困る生き物はどれだろう」の発問を中心に考えた。後半は「なぜ殺してはいけないのか」を読み、生命の尊さを有限性、連続性から考えた。自分の生命も他の生命によって生かされていることを実感し感謝の思いを口にする生徒も見受けられた。	
184	中	全学年	道徳	いのちの授業 「やさしい心が 一番大切だよ」	娘をいじめによる自死で亡くした母親が講師として、いじめの悲惨さ、やさしい心の大切さを講演してくださった。生徒は代表生徒は対面で、その他の生徒はリモートで講演を聴いていたが、真剣な表情で耳を傾け、中には涙ぐむ生徒の姿も見られた。	
185	中	中 3	道徳	道徳教育 「償い」	道徳の授業でさだまさしの名曲である「償い」を聞き、その曲の歌詞について考えた。この曲では、被害者の奥さんが加害者に「送金をやめて自分自身の人生を元の戻してください」という旨の手紙を書いた。自分がもし奥さんの立場だったらどのような行動をとるかを考え、今後の生き方について考えた。「自分が人を傷つけたりしないように日々の生活を気を付ける」「みんなが幸せであるように生きたい」など、日々の生活から行動に気を付け幸せな人生を送りたいといったような感想が多数見られた。	

186	中	中 1	道徳	命の恵みをいただきます	ある家族の自給自足生活の様子を記録した動画を視聴した。この家族は、農業や畜産を家族で行っており、その日家族で食べるものの多くは自分たちで作ったもので賄っている。動画の中では養鶏している鶏を捌いて食卓にあがるところまで紹介されていた。 私たちは普段スーパーなどで加工された食肉を購入することが多いが、実際は生きている動物の命をいただいているということを、動画を視聴することによって改めて実感することができていた。 食べるとき、作った人や育てた人、その食べ物にもより感謝することが大切だと感じることができていた。	動画視聴後担任による授業
187	中	中複合	道徳	君も星だよ～合唱曲＜COSMOS＞にこめたメッセージ～	合唱曲として中学生に親しまれている曲を作詞・作曲している音楽ユニットによる講演会が行われた。この講演会では、楽曲の題材になることが多い自然や宇宙の神秘のお話から、生き物の命や人生の話に発展して、一人一人の命の大切さを訴えるものであった。 講演を聞いた生徒たちは、合唱曲にこめられた思いを通して、自分たちの命や世界の平和や宇宙に向けて視野を広げることができていた。宇宙には様々な色や形の星があるように私も自分なりの光り方で夢へと向かっていきたい、自分自身も誰かの心を励ましたり支えたりする存在になりたいなど、前向きな感想を寄せている生徒が多くいた。	体育館にて1～3年全校生徒対象の講演会 講演会后、感想文記入
188	中	中複合	道徳	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。	毎年「いのちの授業大賞作文コンクール」に全校生徒が取り組んでいる。各学年の道徳科の教材を使用した。随所で話し合い活動や議論する場面を設定したことで、主人公のふるまいや体験を自分ごととして考えることができた。 また振り返りシートや作文には、いのちの大切さを切実に訴える感想が多く見られた。	中1「いじめに当たるのはどれだろう」 中2「奇跡の一週間」 中3「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージー」 出典：東京書籍
189	中	中 3	道徳	生教育講演会	健康教育アドバイザーを講師に招き、「自分を大切にすること」という演題で講演会を行った。エイズを含む性感染症について理解を深めさせるとともに、自他のいのちや体を大切にすること意識を養うことをねらいとした。生徒たちは講演を聞いて、性感染症を正しく理解し自分や周りの人が悲しむ結果になることや、安易な性行動が性感染症や望まない妊娠につながることに気づいたと思われる。さらに、エイズなどの性感染症は他人事ではないことに気づき、予防方法などを学ぶことができた。 また、自分の存在の大切さに気づくことを通して、他者の大切さにも気付くことができ、自分を大切にすることが相手を大切にすることにつながっていることを実感することができた。	講師：健康教育アドバイザー（医師）

190	中	中 2	道徳	性教育講演会	龍ヶ崎済生会病院産婦人科医師を講師に招き、「自分を大切に生きてために～君は愛されるために生まれた～」という演題で講演会を行った。テーマについては、「生きる」につながる教育ということで、「性」ではなく「生」の字を使用した。 生命誕生について知ること、自分や周囲の人の命の尊さに気づくことを目的とし、具体的には、エイズを含む性感染症について理解を深めさせるとともに、自他のいのちや体を大切にする意識を養うことをねらいとした。 生徒たちは講演を聞いて、性感染症を正しく理解し自分や周りの人が悲しむ結果になることや、安易な性行動が性感染症や望まない妊娠につながることに気づいたと思われる。特に、いのちの始まりと誕生の話が印象に残ったようだった。講演後の感想からは、いのちの重さと、それぞれが大事な存在であり自他のいのちと体を大切にしたいという記述が多く見られた。	講師：龍ヶ崎済生会病院産婦人科医師
191	中	中 2	道徳	道徳授業 「泣きすぎてはいけない」	亡くなった祖父の、孫への思いについて書かれた詩から、「生きる」ということについて考えた。生命には終わりがあること、生命はつながりあうとともに関わりあっていることについて、理解を深めた。	光村図書中学道徳 2 「きみがいちばんひかるとき」
192	中	中 3	道徳	道徳授業 「あの日 生まれた命」	生命の尊さは、その連続性や有限性といった生物的・身体的側面だけでなく、多くの人との関わりの中で生きているという、社会的側面からも捉えることができた。多くの命が失われた震災の中で生まれた命を見つめることを通して、どんな状況であっても生命の誕生は祝福されるものだということ、誕生してきた生命には、生きているだけで価値があるということについて深く考えた。自分や他者の命を大切にする心情を育むことを目指した。	光村図書中学道徳 3 「きみがいちばんひかるとき」
193	中	中 1	道徳	「私に宇宙のプレゼント」（よりよく生きる喜び）	生命にかかわる「命」と人生を輝かせるという意味での「いのち」の二面から生命の尊重について考えさせ、「いのち」の面から「生きる喜び」について学習した。本授業では、移植経験者である方との対話で「臓器移植」について考えを深め、移植自体にかかわる様々な葛藤についても移植経験者の方からのコメントを聞き、再度、生徒間での共有を行った。その中で移植された方のことだけではなく移植を行った方のことも触れながら意見を共有している姿が見られた。本授業で自分自身の人生をよりよく生きていこうと考えることができた。	講師：岐阜聖徳学園大学教授
194	中	中 2	道徳	命をつなぐって、どうしたことだろう 「D(19) 生命の尊さ」	脳死した娘の死を受け止め、臓器提供を求める他者の命を思う父親と、臓器提供を決意した後も娘への思いが晴れずにいる母親の手紙を読み比べることで、一人ひとりがもつ命の尊さについて学習した。 「臓器移植という素晴らしい技術がある」という導入から、父親の手紙のみ、母親の手紙のみを読んだ生徒同士で対話を行った。「どちらの思いが正しいのか」ではなく、両者の思いの共通点や相違点を整理しながら自他の命を大切にする気持ちについて考えることができた。	光村図書中学道徳 2 P. 121 テレビ局のニュース番組がYouTubeに上げている報道の映像を、モニターで映して視聴した。

195	中	中 2	道徳	いのちを考える	資料を読み、ホスピスでボランティアを行っている人の心情に迫った。「余命 1 週間の人に、自分だったらイラスト制作を依頼するだろうか」と発問し、それぞれ意見を交換した。「依頼する」「依頼しない」と意見は分かれたが、どちらも残された命をどう充実して過ごすかということに対して真剣に考え、時には他者の意見に触れ、自分の意見が変わる場面もみられた。授業の最後に「死を考えることは生き方を考えること」と締め、自分は命を輝かせるためにどのように生きていきたいか考えた。	資料「奇跡の一週間」 (新しい道徳 東京書籍)
196	県西	中 2	道徳	最後のパートナー	引退した盲導犬を引き取るボランティアを始めた筆者が、犬との早すぎる死別を経験するうちに、悲しみに耐えきれず意欲を失ってしまうが、引退犬のボランティアが盲導犬を必要としている人に役に立っていることを知り、意欲を取り戻す題材を扱った。 命は、すべてのものに宿っているものである。盲導犬は、役目を終えると残り少ない命であるが大切な命であり、人を支える命である。生徒は、誰かのための命を大切にすることで、自分も誰かのための命になれると感じいった。この教材での学習から、命とちゃんと向き合わないといけないと考えるようになった、と振り返った。	「中学道徳 あすを生きる 第 2 学年」(日本文教出版) D-(19) 生命の尊さ
197	県西	中 1	道徳	「トマトとメロン」	トマトとメロンを題材に書かれた詩で、自分と他人を比べて考えてしまうことを気づかせる題材である。詩を読む前に、生徒自身に「自分のよさ」について考えさせた。多くの生徒は、すぐには思いつかず、むしろ「ない」と答えた生徒が多かった。「ない」と答えた生徒の考えの中からは、「勉強ができない」「コミュニケーションが上手くできない」など他人の存在が大きく、他人と自分を比べ、自分を肯定できない意見が目立った。著者の思いはどのようなことかを考え、全体で共有した。生徒は「トマトがトマトであるように、自分は自分でしかない」「自分を大切にしたい」と振り返り、今後の自分自身の生き方について考えを深めることができた。	あすを生きる
198	県西	中 3	道徳	豊かな人権感覚 「命の大切さ」	物語は、病気で入院することになり、病室で出会った K 君との関係を通して主人公が感じたことや、退院後に同級生から心無いことばを受けたこと。そして、K 君との再会を受けての主人公の思いを描いている。 ほとんどの生徒が入院の経験がなく、イメージしづらい内容ではあった。しかし、主人公の気持ちに立って考えることができ、過半数の生徒は命の大切さを学び、豊かな人権感覚を身に付けた振り返りを書くことができた。 物語とは別に、自分の身内に行われている心臓マッサージをやめてくださいと言えるか言えないかという発問(続けても助かる見込みが非常に少なく、このまま続けても骨が折れてしまうだけという医師からの言葉を受けたとして)を考えさせた。悩みながらも、生徒たちは真剣に考えて記載していた。	中学道徳 あすを生きる 3 【日本文教出版】

199	県西	中 1	道徳	つながる生命 生命の尊さ	阪神・淡路大震災で起こった悲劇と家族のつながりについての題材である。震災で息子（兄）を失ってしまった母親の視点で話が描かれており、もう一人の息子（弟）が生きていてくれたことに感謝しつつも、亡くなってしまった兄のことをいつまでも忘れないようにする母親の心理描写が中心となっている。 この作品では、震災に対する恐怖と、母から生き残った弟への感謝の思いが述べられている。生徒たちはこの作品を通じて、生きていくことに感謝することや、多くの人々の支えによって自分の生活が成り立ち、自分自身がかげがえのない存在であるということに気づくことができた。また、生命や家族など、身近に感じるものを改めて大切にしようという気持ちを再認識する姿勢を感じることもできた。	参考文献 「中学道徳 あすを生きる 1」
200	県西	中 3	道徳	かけがえのない命 題材名：希望	東日本大震災で大きな被害を出した南三陸町出身の主人公と母との関わりを通して、故郷や大切な人を思う気持ちを実感する。また、多くの親戚が亡くなってしまったことや、津波とともに流され、奇跡的に生還した祖母の言葉から自身の人生を振り返る。また、復興に携わる人たちの姿から自身も苦境を乗り越えて、より人生を充実させようとする気持ちを強く持つ。	
201	県西	中 3	道徳	自他の命の大切さ 題材名：臓器ドナー	臓器提供にめぐる迷いや問題を通して、生と死や自他の生命について考え、自他の生命の尊さについて考える。	
202	県西	中 3	道徳	生命の尊さ	中学道徳「あすを生きる③」（日本文教出版）内、8「エリカ - 奇跡のいのち -」を題材として3年生に授業を行った。第2次世界大戦については、社会科で履修済みであったので、当時の国際情勢を踏まえながら、ナチスドイツが行ったユダヤ人への迫害、強制収容所でのできごと、戦争の残酷さなどをとおし、家族を持てることの軌跡や生命の先祖からの連続性、生きていくことへの感謝などをみんなで考えた。	あすを生きる（日本文教出版）
203	県西	中 3	道徳	生命の尊さ	第二次世界大戦中、強制収容所へユダヤ人を送り込む汽車の車内。一筋の生の光を求めた両親は、エリカを汽車から外に放り投げた。生きていくことが当たり前現在の現在、生き延びたエリカの姿から、生命を尊ぶことや全うすることについて深く考えることができた。	対象学年：中 3 教材：「エリカー奇跡のいのち」日本文教出版
204	県西	中 3	道徳	生命の尊さ	臓器提供や臓器提供意思表示カードをとおして、生命の尊さや価値観を考えさせるものである。自分の大切な人が脳死になってしまったら、自分はどのような判断をし、どのような態度をとるのか、自分の価値観に照らし合わせて考えた。自分だったら臓器提供するかについて、学習前後で考えが変わる生徒や、さまざまな価値観にふれて悩む生徒などそれぞれがしっかりと問題に向き合う姿が見られた。	中学道徳 あすを生きる 3年

205	県西	中 1	道徳	いのちを考える	教科書の「あなたはひかり」「いのちって何だろう」を読み、いのちそのものの価値について考えた。授業では、自分自身のいのちと他者のいのちの尊さの理由を考えたり、話し合ったりする活動を行った。2時間扱いの2時間目は担任が指導を行い、ふだんの生徒の様子や実態に合わせて生徒が主体的に考えられるよう工夫をした。授業後、いのちについて考えたことを作文にまとめた。実体験から「改めていのちについて考えなおした。」や、「なぜいのちが大切なのか結論を見つけることができないが考え続けたい。」という内容の作文を書く生徒もあり、いのちについて深く考えることができた。	教材：教科書 「新訂新しい道徳1」 (東京書籍)
206	県西	中 2	道徳	生命の尊重	教科書の「奇跡の一週間」を題材として授業を行った。ホスピスで働く「私」と残された生命を全うしようとする末期がん患者の生き方に関する資料で、死と向き合うからこそ見えてくる生命の輝きに気づくことができる教材である。生徒は「限りある命をどのように生きることが大切か」を考え、議論した。振り返りシートには「命の大切さ」について見つめなおし、前向きに日々を過ごしていこうと考えている記述が見られた。授業後には、いのちについて考えたことを作文にまとめた。	教材：教科書 「新訂新しい道徳2」 (東京書籍)
207	県西	中複合	道徳	SNS、誹謗中傷	全学年の道徳として、ネットでの誹謗中傷で命を絶った子どもをもつ方の講演会を行った。事前に、SNSでの困っていることなどのアンケートを行い、それを基に、SNSは何のためにあるのかということや、誹謗中傷と批判の違いなどを分かりやすく説明していただいた。SNSの危険性などの話の後に、命を絶ってしまった自分の子どもの話をすることで、SNSの使い方や誹謗中傷ということを深く考える時間になった。振り返りからも多くの生徒から言葉遣いを考えなおす機会になったという回答を得られた。	特定非営利活動法人 リメンバーハナ
208	県西	中 1	道徳	生命の尊さ	みつはしちかこの詩「あなたはひかり」を通して、自分自身の「いのち」について多面的・多角的に考え、「いのち」の大切さを自覚し、どう生きるかを考えることができた。授業では、詩の一文である「一粒のひかり」から自分が「ひかり」だと思う場面と理由について深く考えた。クラスメイトとの意見共有によって、自分だけではなく一人ひとりが大切ないのちであることに気づくきっかけとなった。生徒の振り返りでは、自分が今まで多くの人に大切に育ててもらった存在であることに気づき、生きることに精一杯に取り組んでいくという考えが見られた。	東京書籍 新しい道徳1 「あなたはひかり」
209	県西	中 3	道徳	生命の尊さ 「いのちを考える」	人の受精卵の大きさが、小豆の大きさとほぼ同じであることから、生徒全員に小豆を配付した。その小ささから、生命の偉大さを感じていた。養護教諭より自身の出産・育児の体験談を聞いた。生徒の多くは、授業前に自分の誕生時の様子などを家族から聞いてきており、出産・育児に対しての家族の喜びや苦労などに共感することができた。	本校養護教諭

210	県西	中 2	道徳	いのちについて考える	病気で死と向き合いながら一生懸命に生きている方の話から、今を生きている人の限りある生命の尊さについて考えた。次に妹の誕生についての詩を読み、主人公や家族の思いを通して、生命のつながりや関わり合い、生命の尊さについて考えた。まとめとして、「いつか終わりが来るいのち」（有限性）、「ずっとつながっているいのち」（連続性）、「今ここにある私のいのち」（偶然性）という三つのいのちについて意見を共有し、考えを深めた。私たちのいのちはかけがえない大切なものだということを考えることができた。	学年職員 新しい道徳 2 「奇跡の一週間」 「妹に」 「三つのいのちについて考える」
211	県西	中 1	道徳	道徳教育 「いのちの尊さ」	講師を招いて、いじめの実態や生命の尊さについて講話をいただいた。講話では、いじめを受けていた人の生の声を伝える場面や、人の心の弱さについて自身の経験をもとに話される場面があり、生徒たちは自分の行動を振り返り、考えている様子が見られた。また、講話後の感想を読むと、相手の立場にたって言葉をかけていこうと考える生徒や、嫌な思いをしている友達を見かけたら声をかけていこうと考える生徒がいた。	講師：NPO法人ジェントルハートプロジェクト 理事
212	県西	中 2	道徳	「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」	一生身動きがとれないと診断され、安楽死を願う母親と、その母親に動けるようになって欲しいと願う子供たち、その両者に対して、それぞれの願いを叶えようとするドクターキリコとブラックジャックの話である。相反する価値観や不慮の死を通して、生命の尊さについて深く考えさせることをねらいとした教材である。本教材を通して、生命の尊さや生命のかけがえないことについて、自分自身との関わりの中で考えを深める様子があった。	新・中学校道徳 「明日への扉 2 年」
213	県西	中 3	道徳	かけがえない生命の尊重	臓器移植についての教科書の教材を読み、その後、動画「～つなぐ命、つながる希望～」を視聴した。そして厚生労働省から送られてきた冊子「いのちの贈りもの」を配布して臓器移植について考えた。生徒は、自分は臓器を提供するかどうか、自分事として考えていた。あたりまえの毎日に感謝の気持ちを持ち、家族とも臓器移植について話してみようと思うという感想を持つ生徒も多かった。	「明日への扉 3 (Gakken)」 「一緒に生きている」
214	県西	中 2	道徳	生命の尊さ 「奇跡の一週間」	末期がんの状態、死と向き合いながら、懸命に生きる患者の姿を目にした主人公の行動に対して、生きることの意味について考えた。命が大切であることは誰もがわかっていることであるが、実際には命を軽視した事件が絶えない。「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論した。	・『新訂新しい道徳 2』（東京書籍）